

# 事項一〇「ブラジル」移民雜纂

一八〇 一月六日 在伯國藤田臨時代理公使ヨリ  
桂兼任外務大臣宛

伯國行本邦移民会社競争ノ弊害ニ付事情ヲ具  
陳シ多數会社ニ許可ヲ与ヘザル様稟請ノ件

公第二号 (三月七日接受)

大正二年一月六日

在伯國

臨時代理公使 藤田敏郎(印)

外務大臣公爵 桂太郎殿

伯國へ日本移民ヲ誘入スルコトニ関シテハ六七年前故杉村公使ノ周到ナル考慮ヲ経タル建議ニ依リ布哇、秘露、北米、加奈太、墨西哥等ニ於ケル移民会社競争ノ弊ニ鑑ミ各会社共同計算ヲ以テ之ニ当ラシムルコトニ御決定ノ処各移民会社ハ皇國殖民会社出張員ト「サンパウロ」政府トノ契約ヲ不利トナシ之ニ加入ヲ欲セザリシニヨリ皇國殖民会社单独ニ取扱ヲ許可セラレ第一回移民ヲ輸送失敗シ竹村与右エ門之ヲ継承シ第二回ヲ輸送シ一昨年末東洋移民会社モ御許可

ニ伯國移民取扱方ヲ御許可不相成候様切望ニ不堪候小官ハ既ニ許可相成候ニ会社ニ私セヨト申ス意見ニ無之小官ノ希望ハ現在ノニ会社ヲモ當國ニ於ケル移民事業ヲ共同營業セシメ度ト存候儀ニテ新タニ取扱ヲ希望スル会社モ其共同ニ加入セシメントスルモノニ有之若其共同一合同ガ今更不可能ナレバ新会社ハ既設両会社ノ一ニ共同シ營業スベシト御下命相成度存候是不偏不党我移民事業ヲ永続セシムル只一ノ方策ト確信致候反之若シ各移民会社ニ均シク當國移民取扱ヲ御許可相成候ハ、其名ハ一視同仁ノ美アリト雖モ二三年ナラズシテ本事業ヲ根本的ニ破壊シ且徒ニ本邦人都会ニ集合シ當國官民ヨリ排斥ノ不面目ヲ蒙ムル虞アリト存候右事情ヲ具シ特ニ仰稟議候 敬具

一八一 一月十五日 在伯國藤田臨時代理公使ヨリ  
桂兼任外務大臣宛

「サンパウロ」州珈琲耕地移民ニ関スル安藤

技師ノ意見書送付ノ件

附屬書 安藤技師意見書

公第一一号 (二月二十四日接受)

大正二年一月十五日

ヲ得昨年三月竹村ト共ニ送民致候事情如此ニシテ營利会社ノ事ナレバ種々画策競争シ「サンパウロ」政府及耕主ノ乘スル所トナル憂アリ移民ノ不利益不尠ト存候へ共一旦御許可相成候上ハ如何トモ致方無之ニ付両社ヲシテ互ニ相提携シ競争致間敷旨懇諭シ両社出張員モ其旨ヲ体シ爾来一致協力事業改善ノ緒ニ就カント致候際此程森岡真ノ代理人渡伯シ新タニ結約ヲ「サンパウロ」政府ニ申込候様子ニ付小官親シク其代理人ニ訊問致候処其実ハ東洋移民会社ガ森岡ヲ買取シ森岡ノ名ヲ以テ二倍ノ送民ヲナサントノ事ナレバ敢テ大ナル弊害ナカラシカト存候然ルニ此度日本殖民会社代理人大平善太郎ナル者渡伯新契約締結ヲ「サンパウロ」政府ニ申込マントスル趣ニ候同人ニ就キ我外務省ヨリ予メ許可ヲ得タルヤヲ尋問致候処未ダ何等御許可又ハ御内諾ヲモ得スト相答へ候「サンパウロ」政府ハ本月末調査ノ上第三回日本移民ノ結果ニ満足致候ハ、操縦上新会社トモ契約可致ヤノ虞有之候移民会社競争ノ極移民事業ヲ破壊スルコトハ業ニ已ニ御承知ト存候間茲ニ贅言ヲ不費候何卒多數会社

在伯國

臨時代理公使 藤田敏郎(印)

外務大臣公爵 桂太郎殿

當國サンパウロ州珈琲耕地移民ニ関シ安藤技師ヨリ小官宛私信入手致候処其中耕地ニ由リ移民ニ幸不幸アリ各移民会社ハ其撰択ニ特別ノ注意ヲ要スル意見ハ既ニ小官ヨリ度々上申致候所ト一致致候其撰択ニ関シ移民会社ニ専門ノ技師ヲ付シ常ニ各耕地ヲ巡回シ精細調査セシムル必要アリ是ガ費用支弁ノ為メニハ移民各自ヨリ手数料ヲ徴取スルコトヲ許可相成度云々ハ名案ト被存候間私信其儘ヲ写取り御参考ノ為メ供高覽候右申進候 敬具

(附屬書)

安藤技師意見書

一、珈琲園ノ狀況ハ地方ニヨリ著シキ差異アルコトハ申ス迄モ無之事ニ候ガ我移民ガ當國ニ来リ各耕地ニ配付セラルトキハ(勿論移民会社ニテ予メ耕地ノ撰択ヲ為セルハ申ス迄モナキ事ナレトモ)耕地ノ良否ニヨリ移民ノ收入ニ大ナル差異ヲ生ズル事ト存候一様ノ船賃ヲ払ヒ一様ノ取扱ヲ受クベキ移民ガ当地ニ来リタル上耕地ニ配當セラル、ニ當

リ甲ハ良好ノ耕地ニ入りテ乙ハ不良ノ耕地ニ就カシメラル  
 、ニ至リテハ恰モ移民ハ当州ノ「ロテリヤ」ヲ買フト同様  
 ノ事ト相成甲ハ仕合セナルベキモ乙ハ甚タ不幸ナリト存候  
 之レガ為メ乙ハ逃亡ヲ企シルニ至ルコト、存候或ハ「サン  
 パウロ」、「サントス」ノ勞銀高キヲ羨ミ逃亡スル者アルベ  
 キモ之レハ蓋シ少数ナルベク而モ此等ノ市ニ向フテ逃亡ス  
 ルハ其引捕ヘラル、ヲ恐ル、ノ結果最モ隱所トシテ安全ナ  
 ル市内ヲ扱ムモノト存候斯クシテ市内ニ多数入込ムトスレ  
 ハ将来ノ結果ハ推シテ知ルベク我移民ニ就キ大打撃ヲ受ク  
 ベキ事ト存候サレハ是等移民ノ逃亡ヲ防ギ我移民ヲ将来益  
 々多カラシメンニハ耕地ノ撰択ヲ嚴シ不良ナル状況ニア  
 ル耕地ニテハ相当ノ割増ヲナサシメ(例セハ良耕地ニテ千  
 本ニツキ百廿「ミルレース」ナレバ不良ナル耕地ハ其状況  
 ニ応ジ百五十「ミル」又ハ百八十「ミル」トナサシムル  
 事)移民ノ収入ニ可成甲乙無キ様移民会社ヲシテ耕主ニ協  
 議セシムルコト最モ必要ノ事ト存候而シテ此等耕地ノ模様  
 ハ今日ニ於テモ移民会社ハ其存立上充分ノ力ヲ尽シ居リ候  
 ハ疑ハザル所ニ候ヘ共耕地ノ状況ハ素人ノ觀察ノミニテハ  
 到底不十分ナルベク且今日ノ移民会社ノ經濟ニテハ其ベス

ニ堪ヘザルヲ以テ更ニ移民ヨリ一名ニツキ五円乃至十円ノ  
 費用ヲ増徴シテ可ナルベシ或ハ移民ヨリ取ルハ酷ナラント  
 ノ説アルモ耕地ノ良好ナルモノニ入ルノ利益ニ比スレハ決  
 シテ酷ナラザルノミナラズ之ヲ倍蕪スルモ敢テ不当ナラズ  
 ト信ズカクセバ移民ノ逃亡ハ大ニ減少シ耕主、会社、移民  
 共ニ利益ヲ得ルコト、ナレバ当國ニ於テ漸次我國民ノ地歩  
 ヲ占ムルノ基礎タルベシト信ジ申候

一八二 三月二十四日  
 在リオデジャネイロ藤田總領事代理  
 ヨリ  
 牧野外務大臣宛

伯国入国移民統計報告ノ件

附屬書 伯国入国移民統計

領第一七号

(五月二十八日接受)

大正二年三月二十四日

在リオデジャネイロ

總領事代理領事 藤 田 敏 郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

大正元年(千九百十二年)中伯国ニ入国セル移民統計ニ關

シ別紙報告書差進候間御閱覽相成度此段申進候 敬具

(附屬書)

トヲ尽シ候方ハ望ムベカラザルコト、存候(移民会社ノ取  
 入ハ船賃ノ利益一人ニ付十五円乃至二十円位ナリ)ノミ  
 ニシテ手数料ノ如キハ募集費及本国ノ經費ヲ償フテ余リ無  
 キ事ト存候サレハ大利益ハ僅カニ二三万円ノコトナレハ之  
 レヲ更ニ耕地ノ視察ニ使用セヨト云フコトハ出来難キ事ト  
 存候)然レドモ現在ノ移民会社ニ充分ナル耕地ノ視察ヲ望  
 ムベカラザル事ナリトテ放任セバ我移民ノ声価ハ日ヲ逐フ  
 テ墜落スベク遂ニ厭フベキ事件ノ出来トナルベキハ恐レナ  
 キニアラズト存候我政府ニシテ当國ノ移民ヲ望マザルニ於  
 テハ可ナランモ若シ當國ニ移民ヲ送り相当ノ地歩ヲ占メサ  
 シメントノ意ナレバ當國ノ移民ニ対シ今日以上相当ノ考慮  
 ヲ加ヘラレンコトヲ望マザルヲ得ザル次第ト存候即其手段  
 トシテハ政府ハ當國ニ相当ノ技術者数名ヲ派遣常住セシメ  
 各耕地ノ状況ヲ常ニ視察シ移民会社ヲシテ移民配当上ノ資  
 料タラシムルコトニ有之候若シ又政府ニ於テ右ノ事項実行  
 シ得ストスレハ移民会社ヲシテ相当ノ技術アルモノ一会社  
 ニ二三名ヲ招聘セシメ(其採否ニ就テハ政府若クハ公使館  
 ノ許可ヲ得ルコト、スルヲ要ス)耕地視察ノ任ニ当ラシム  
 ルコトト致度而シテ之レガ費用ハ現時ノ会社ハ到底其負担

伯国入国移民統計

(一九一二年伯国入国移民統計)

千九百十二年中伯国移民入国総數ハ十八万八百八十二人ニ達  
 シ之ヲ前年度ニ対照スルトキハ四万四千二百十五人ノ増加  
 ナリ今之レヲ入港別ニスル時ハ「リオ」港八万三千五十四  
 人、「サントス」港九万二千八百八十二人、「リオグランデ」、  
 「フロリアノポリス」、「サンフランシスコ」、「イタジャヒ  
 ー」、「パラナグア」、「レシフェ」、「サンルイス」ヲ合計シ  
 テ四千二百四十六人ナリ(「パラ」港未調)

(一九〇七年乃至一九一二年伯国入国移民年次別統計)

「アフォンソペナ」大統領在職中千九百七年殖民局設置以  
 来千九百十二年迄ニ入国セシ外国移民數ハ六十五万二千六  
 百五人ヲ算シ之レヲ年別スレバ左ノ如シ。

年次	員数
一九〇七年	六七、七八七
一九〇八年	九四、六九五
一九〇九年	八五、四一〇
一九一〇年	八八、五六四
一九一一年	一三五、九六七

一九二二年 一八〇、一八二

計 六五二、六〇五

(一九二二年伯国入国移民種類別統計)

千九百二十二年ニ於ケル入国移民十八万八百八十二人中自由移民十二万四千五百七十七人、補助移民五万五千六百六十五人ニシテ農業者耕地労働者合計十三万四千六百六十二人ニ達セリ。

(一九〇七年乃至一九二二年伯国入国移民国籍別統計)

今千九百二十二年乃至千九百二十二年ニ於ケル移民入国数ヲ国別スレバ左ノ如シ。

国籍	一九〇七年	一九一〇年	一九二二年	合計
葡	三、六八二	三、〇三三	三、〇八七	九、七八二
西	九、三三三	一、八六三	一、六二九	二、七二五
伊	一、八三三	一、八七三	一、六六八	五、三七四
露	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
土	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
独	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
日	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
英	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
其他	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
合計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇

東洋移民両会社雇船ニ関シテハ客年モ縷々上申致候通り甚シキ差違有之數日ノ航海ナレハ忍耐致得候へ共六十余日間ノ事ナレバ運動スルヲ得ル甲板、空気ノ流通佳キ船室、適当ノ食事等ヲ支給スルハ当然ノ待遇ト存候委曲ハ別紙並ニ兵庫縣知事ヨリ進達スベキ第二雲海丸及若狭丸航海日誌ニ就キ御承悉明年ヨリハ可然方法ヲ執ラレ移民ヲシテ幸不幸勿ラシメラレ度切望致候此段申進候 敬具

(附屬書)

大正二年 本邦移民伯国サンパウロ州到着状況報告

甲 竹村与右衛門取扱移民

移民取扱人竹村与右衛門取扱ニ係ル本年度伯国サンパウロ州行本邦移民ハ別表第一号ニ掲ゲタル如ク家族移民三百八十四家族此ノ人員一千四百四十九名ノ外別ニ呼寄移民五十七名アリテ通計千五百六名ニ上リ内熊本県人最多數ヲ占メ福岡、広島ノ二県之ニ亞ギ愛媛、高知兩県ノ移民亦孰レモ百名ヲ超エ福井県及長崎県ヨリモ各々數家族ノ応募渡航者アリ一同神戸港ニ於テ中村精七郎所有汽船第二雲海丸ニ搭乗シテ本年三月五日午後四時三十分解纜途中新嘉坡及南阿「ボート、ナタル」ニ寄港シ五月六日午前六時二十分無事

前表ニ就テ見ルニ入国移民数ノ最モ多キハ葡、西、伊三国ナリト雖モ此等ノ多クハ一時的の出稼移民トシテ渡来シ若干ノ貯金ヲナシタル後或ハ重爾然丁共和国ニ転入スルモノ或ハ帰国スルモノ多ケレトモ独逸人、埃匈国人、露西亜人ハ短期出稼ノ目的ヲ以テ入国スルモノナク専ラ土着永住ノ計ヲ立テ殖民地ニ入りテ未墾地ヲ開拓シ独立農民タルヲ期スルニ似タリ。

一八三 六月二日 在伯国藤田臨時代理公使ヨリ 牧野外務大臣宛

本邦移民伯国「サンパウロ」州到着状況ニ関スル野田副領事ノ報告書送達ノ件

附屬書 本邦移民サンパウロ州到着状況報告書

公第五一号 (七月二十八日接受)

大正二年六月二日

在伯

臨時代理公使 藤田敏郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本年渡航新移民到着當時ノ状況ニ関シ「サンパウロ」市出張中ノ野田副領事ヨリ別紙報告書提出致候間及進達候竹村

伯国サンパウロ州サントス港ニ到着セリ

本移民運送船第二雲海丸ノ航海ハ神戸港拔錨後稍々風波アリテ船体少シク動揺シ移民中船暈ノ為メ室内ニ呻吟スルモノ多カリシモ台湾海峡通過ノ後ハ海上平穩トナリ三月十八日午前一時十六分新嘉坡着、同港ニ於テ飲料水並ニ食料品ノ補充ヲナシタル上、翌十九日午後零時三十一分同港ヨリ出帆、其後海上平穩ニシテ同月二十四日午後五時十四分新嘉坡ヲ距ル航程一千百七十三哩東経八十八度五十分ノ地点ニ於テ赤道ヲ北ヨリ南ニ通過シ翌二十五日盛大ナル赤道通過祭ヲ執行セリ爾來日々海上ニ低濤アリテ船体少シク動揺ス四月十三日午前十一時十五分ボート、ナタル着、飲料水及食料品ノ補充ヲナシ翌々十五日午後四時十分同港出帆以來ハ海上低濤アリテ船体少シク動揺シタルモ喜望峯ヲ通過シタル後ハ氣候温和ニシテ海上平穩トナリ五月五日午後九時サントス港外ニ着シ一夜仮泊ノ上翌朝六時二十分港内ニ入り前後六十三日ニ亘レル長途ノ航海モ幸ニシテ無事安全ナルヲ得タリ

航海中移民ノ食事ハ前回ノ竹村取扱移民運送船旅順丸及敵島丸ノ賄方ヲ請負ヒ既ニ相当ノ経験ヲ有スル楠瀬某ニ之

ヲ請負ハシメ其ノ材料トシテ白米三百八十石、麦百石、醬油十石、塩十俵、砂糖二千斤、味噌千貫目、沢庵漬千九百貫目、生牛肉百貫目ヲ初メ梅干其他ノ各種漬物類、乾物及乾野菜類、鯨肉其他ノ乾塩魚、各種罐詰類等ヲ多量ニ搭載シ尚ホ寄港地二箇所ニ於テ新鮮ナル食料品若干ヲ補充シタル等大体ニ於テ前回ノ敵島丸ヨリモ食料品ノ種類多ク且醬油、砂糖、沢庵漬等ハ稍々多量ニ準備シタレドモ今回ハ移民人員敵島丸ニ比シ百二十名多ク殊ニ移民在船日数モ同船ヨリ長キコト更ニ六日ナリシガ故ニ前回ニ勝ル糧食ノ用意アリシト速断スルコト能ハズ然レドモ今回ハ移民取扱人ニ於テ特ニ費用ヲ支弁シ寄港地ニ於テ新鮮ナル野菜其他ヲ多量ニ購入供給セシメ或ハ接待ノ意味ニテ時々煎豆煎餅等ノ間食物ヲ配与シ船主側ヨリモ之ニ類スル接待ヲナシ賄方ハ前二回ノ経験ニ鑑ミ成ル可ク一般移民ノ嗜好ニ適スル食物ヲ供スル等前回ニ比シ大ニ改良ノ形跡アリ脚氣予防ノタメ主トシテ麦飯ヲ供給シ大人一名一日米三合五勺麦一合ヲ以テ定量トシ之ニ菜汁ノ費用ヲ加ヘ一日一人ノ食料平均三十錢ニ当リシガ航海中食物ニ関スル苦情ハ極メテ少カリシトイフ

航海中船内ノ規律ハ能ク遵守維持セラレ船長以下乗組船員ハ親切ニ移民ヲ待遇シ客年敵島丸輸送移民取締ノ特別任務ヲ帯ビテ同船ニ便乗シ始終能ク移民ヲ慰撫訓戒シテ頗ル適任者ナリトノ好評ヲ博シタル松田順平ハ今回再ビ竹村移民取扱人ノ囑託ヲ受ケ航海中ノ移民総監督トシテ同乗シ来リタルガ第二雲海丸ノ構造タルヤ甲板狹隘ナルガ上ニ更ニ便所浴室等ヲ設備シテ益々狹隘ヲ感ゼシメ且其位置低キガ故ニ頗々海水ノ躍入スルアリテ一面ニ乾燥セル時間甚短ク從ツテ船内何レノ部分ニ於テモ多人数ヲ一度ニ会合セシムル場所ヲ欠キ之ガ為メ敵島丸航海中ニ於ケルガ如ク児童及婦人ノタメニ有益ナル会合ヲ催スノ便宜ナカリシニ拘ラズ頗々移民室ヲ歴訪シテ有益ナル訓戒ヲ与ヘ或ハ移民総代等ヲ一場ニ招集シテ渡航後ノ心得ヲ説示シ之ヲ移民ニ伝ヘシムルナド其ノ功勞特ニ顯著ニシテ船員及移民一同ノ共ニ敬服且感謝スル所タリ又船中ニテハ児童ヲ慰藉スルタメ予ネテ用意シ来レル玩具菓子等ヲ配与シ航海中移民ノ動靜ハ頗ル平穩ニシテ何等ノ喧騒ヲ生ズルコトナカリシトイフ

五月六日第二雲海丸サントス港内ニ進入投錨スルヤ午前九時三十分検疫官二名水上警察官吏、税関吏、移民局吏員ト

第二雲海丸ニハ二名ノ船医アリテ航海中懇切ニ移民ノ疾病ヲ診察治療シ且船内一般ノ衛生ニ注意ヲ怠ラザリシヲ以テ「ボート、ナタル」以後ニ於テ麻疹ノ流行ヲ見タル外幸ニシテ何等危険ナル伝染病ノ發生ナク船中ニ於テ医師ノ診療ヲ受ケタル患者数ハ最初数日間僅々十数名ニシテ其後漸ク逐フテ増加シ三四十名ヨリ多キハ七八十名ニ達シタルコトアレドモ大抵ハ船暈、感冒、胃加答兒、腸加答兒、氣管枝加答兒、便秘、「アブセス」、外聴道炎等普通ノ疾病ニシテ且重態ニ陥リタル者甚少ク本船ノ容積及設備ガ千五百名ノ移民ヲ搭載シテ六十日以上ノ長航海ヲ為スニ適當ナリヤ否ハ門外漢ノ頗ル疑問トスル所ナルニ拘ラズ幸運ニモ移民ハ概シテ其ノ健康ヲ維持シ航海中六名、サントス港着後一名合計七名ノ死亡者ヲ出シタレドモ内一名ハ早産兒、五名ハ三歳以下ノ幼兒ニシテ大人トテハ神戸港乗船ノ際既ニ心臟病ニ罹レル者唯一名同病ノタメ死亡シタルニ過ギズ又サントス港着船時ノ病者ハ神經痛ヲ患フル婦人一名、胃腸病ニ罹レル男一名、麻疹ニ罹レル小兒二名合計四名ニシテ上陸ニ際シ担架ノ必要アル重症者皆無ナリキ尚ホ航海中出生五件アリタリ

共ニ来船シ乗客名簿、出発港及寄港地ヨリ携帯シ来レル健康証書類ノ提出ヲ命ジ一応之ヲ檢閲シタル後、航海中ノ船内衛生状態ニツキ尋問アリ之ニ對シ死亡者六名アリタルモ其ノ他ハ一般ニ健康ナリト答弁シ尋イデ検疫官ノ命令ニ從ヒ船医ヨリ英文ニテ認メタル死亡証明書ヲ提出シタルノミニテ例ニ依リ移民一同ノ点呼検疹ヲ省略シ極メテ簡單ニ検疫ノ手續結了セリ

斯クテ本移民船ハ五月七日午前十時三十分停車場ニ近キ波止場ニ修繕中ノ外国船一隻ヲ中間ニ挟ミテ横附ケシ直ニ移民上陸開始ノ筈ナリシモ例ニ依リ列車ノ準備意ノ如クナラズ空シク二時間ヲ費シタル後午後零時三十分漸ク其ノ上陸ニ着手シ一同規律正シク且靜穩ニ本船ヲ去リ波止場内ニ引込ミタル二等客車九台ヨリ成ル移民輸送列車ニ乗移リ而シテ此ノ第一列車滿載トナルヤ直ニ波止場ヨリ出発シ更ニ二等客車十数台ヲ聯結セル第二列車ノ到着スルヲ俟ツテ残余ノ移民ヲ上陸セシメ午後四時三十分頃全部滿載トナリタルモ尚ホ五十余名ヲ積殘セリ仍テ此等五十余名ノ移民ハ午後五時五十分発ノ「サンパウロ」市行普通列車ニ便乗セシメタルヲ以テ午後八時過同市移民收容所ニ先着シ第一及第二

ノ移民列車ハ同ジク九時三十分マデニ相前後シテ收容所ニ到着、構内「ブラットフォーム」ニ於テ下車シ其ノ際女一名誤ツテ踏外シ脚部ニ微傷ヲ負ヒタル外ニハ何等ノ出来事ナク直チニ予ネテ臍別ニ用意シアリタル室内ニ夫々收容セラレ晩食ヲ喫シタル後一同寝ニ就キ又当日船中ニテ病死シタル一幼児ノ父及其家族ハ屍体始末ノタメ滞船シ翌日汽車ニテ收容所ニ送遣セラレタリ

移民上陸ノ際サントス港移民局ハ人足数名ヲ備ヒテ之ヲ汽船及汽車ノ昇降口並ニ両者ノ中間ニ配置シ婦人小児ハ勿論多量ノ物品ヲ携帯セル大人ニ至ルマデ一々手ヲ取り或ハ抱キナドシテ其ノ昇降ヲ助ケシメ又移民局員数名出張シ来リ或ハ出口ニ立チテ上陸移民ノ檢数ヲ行ヒ或ハ一般ノ保護監督ヲナスコト定例ノ如ク又上塚代理人ハ部下ノ事務員及通弁十余名ヲ指揮シ移民局員ヲ助ケテ上陸其他ニ関スル諸般ノ便利ヲ図リ移民側ニテハ一県若クハ一団毎ニ選定セル総代熱心ニ奔走尽力セリ

上陸當時ニ於ケル移民ハ男女共ニ洋装シテ毫モ醜態ナク移民トシテハ其ノ服装寧ろ華美ニ過グル者甚多キヲ見受タリ而シテ見物ノタメ上陸地附近ニ米集シタル人数ハ存外少カニシテ密輸入ヲ敢テスル者絶無ナリトテ大概内容検査ヲ省略シ通関セシメタルヲ以テ後ニ到着ノ分モ僅々數時間ニ交付済トナレリ

竹村移民到着ノ際サンパウロ市移民收容所ニ現在シタル歐洲移民ハ僅々二十余名ニ過ギザリシヲ以テ同所ハ宛然本邦移民ノ為メノミニ設ケラレタル寄宿舎ノ如ク我ハ主、彼レハ從ニシテ万事ニ頗ル好都合ナリキ又移民ヲ諸耕地ニ配置スルコトニ関シテモ移民取扱人代理人ハ予メ本邦ヨリ郵送シ来レル精確ナル移民名簿ニ基キ某県移民何家族即チ某某等幾名ハ何々耕地ニ雇ハルベシト一々前以テ決定シ耕地主トノ労働契約書ヲ卷首ニ挿入セル移民手帳ヲ制規ニ從ヒ一家族毎ニ一冊ヅ、記入並ニ印紙貼用等ノ要件ヲ滿タシ置キ収用所内ニテ使用スル食券ノ如キモ予メ番号、家長姓名、家族人員等ヲ夫々記入シテ悉皆準備シ置キタルモノヲ各家長ニ交付シ食事時ニハ一同秩序ヲ乱サズ食物ノ供給ヲ受ケタリ食物ハ例ニ依リ米肉野菜等ノ雜炊、麵包及咖啡ナリシモ特ニ日本人ノ好ム所ナリトテ米麦及乾鱈ノ煮タルモノヲ与ヘ又小児ニハ牛乳ヲ配シ四名ノ病人（内二名ハ麻疹ニ罹レル小児、一名ハ既記ノ負傷シタル婦人）ハ之ヲ構内ニ

リシモ旧移民ニシテ現ニ「サントス」港ニ在留セル者及「サンパウロ市」等ヨリ特ニ出向セル者三四十名米集シ中ニハ新來移民誘拐ノ目的ヲ以テ之ニ接近セントスル者アリシヲ以テ此等移民ノ船内及列車内ニ進入スルヲ嚴禁シ「サンパウロ」市移民收容所到着後モ出來得ル限り新旧移民ノ交通接觸ヲ嚴重ニ警戒セシメタリ

移民ノ手荷物ハ概シテ一個五六貫目乃至七八貫目ノ柳行李ナレドモ往々重量十貫目以上ノ大ナル蓆包又ハ箱詰荷物ヲ携帯セル移民アリ一家族二三個ヲ以テ適當ノ量ト認メラル、ニ拘ラズ間々七八個ヲ携帯シ甚シキハ一家族十二個ヲ齎セル者アリ総個數二千百數十ニシテ一家族五個以上ニ當リ伯国当局者ノ喫驚セル所タリ而シテ此等移民ノ携帯手荷物ハ五月八日朝第二雲海丸ヨリ陸揚ゲテ開始シ翌九日午前中ニ全部終了シタルヲ以テ之ヲ貨車二十四台ニ滿載シテ移民收容所ニ輸送シ先発ノ分ハ九日午前ニ到着セリ即チ所内ニ出張所ヲ設ケ駐在セル税関吏立会ノ上之ヲ各移民ニ交付シ此等手荷物ハ一々之ヲ開装セシメ精密ニ検査ノ上若シ課税スベキ商品ト認ムル物品ヲ分外ニ携帯スルトキハ相當ノ税金ヲ納付セシムル規定ナルニ拘ラズ本邦移民ハ総ベテ正直

在ル附属病院ニ入レテ懇切ニ治療看護シ尚ホ新旧移民ノ漫リニ交通スルヲ禁止スルタメ門衛ヲ嚴ニシ殊ニ夜間扉ヲ乘踰エテ收容所内ニ侵入スル者ヲ防止スルタメ特ニ警官ニ依頼シテ嚴重ニ警戒シタルヲ以テ我が移民ガ收容所ニ寄宿セル間ハ諸事円滑且迅速ニ進行シ何等ノ紛擾ヲ醸サズ又一人ノ逃亡者ヲモ出サザリキ

而シテ各移民ノ身元調並ニ雇主タル咖啡園主トノ労働契約モ諸般ノ準備既ニ整ヘルコト前述ノ如クナリシヲ以テ入所ノ翌日即チ五月八日僅々數時間ニシテ悉皆結了シ携帯手荷物ノ通関及其ノ耕地別取纏方モ九日及十日ノ兩日中ニ片附キ移民モ既ニ三日間收容所ニ於テ静ニ休養ヲ加ヘ且耕地行用意整ヒタルヲ以テ十一、十二、十三ノ三日間ニ夫々被雇耕地ニ向ツテ出発スルコト、ナリ孰レモ早朝構内「ブラットフォーム」ヨリ輸送列車ニ乗込ミ各自ノ携帯手荷物ト共ニ就勞耕地ニ最近キ停車場マデ送遣セラレ停車場ヨリ先キハ各耕地ノ遠近及設備ノ完否ニ応ジ或ハ耕地鉄道馬車若クハ徒歩ニテ耕地ニ安著セリ尚ホ移民收容所ニ於テ出生及死亡各々二件アリ死亡者二名ハ孰レモ麻疹ニ罹レル小児ニシテ斯クノ如ク家内ニ事故ヲ生ジ直ニ耕地ニ向フコト能ハザ

リシ移民七家族アリシガ此等ハ事故消滅スルニ從ヒ夫々契約耕地ニ追送セラレ呼寄移民モ契約移民ト同時ニ夫々呼寄人所在地ニ向ヒ出發セリ

本年度竹村取扱移民ヲ契約備用シタルハ従前ト同ジク悉皆咖啡園主ニシテ別表第二号ニ示セル如ク十二耕地ニ配置セラレタリ而シテ此等十二耕地中九箇所ハ既ニ一回、二回若クハ三回本邦移民ヲ試用シタル緣故アリテ今回初メテ我農民ヲ備入レタルハ僅ニ三耕地ニ過ギズ而カモ此ノ内「サンタ、ガブリエラ」及「ベラ、ギスタ」兩耕地ハ前回ノ竹村取扱移民ヲ試用シタル「モンテ、アレグレ」耕地ト同ジク咖啡王ノ綽名アル「コロネルフランシスコ、シヌミット」氏ノ所有ニ屬スルヲ以テ全然新シキハ唯一箇所ノミトス更ニ從來本邦移民ヲ備用シタル九箇所ノ咖啡園ニ就キテ細説スレバ「サンマルティンニヨ」耕地ハ第一回以來毎度我が移民ヲ備入レ「サンパウロ、カフィー、エステーツ」会社ハ第一回及第三回移民ヲ試用シ、「サンタマリーヤ」耕地ハ最初第二回移民ヲ契約シ次ギニ昨年東洋移民会社取扱移民ヲ試ミ「アカムバメント」耕地ハ第一及第二兩回ノ移民ヲ契約備用シタル「サンジョアキン」耕地ノ一区ナレバ之

ヤ」耕地ノ年百三十「ミルレイス」最高率ニシテ「サンマルティンニヨ」耕地ノ百十「ミルレイス」及「サンタ、ガブリエル」耕地ニ於ケル幼樹ノ手入賃千本年額百「ミルレイス」ヲ最低トシ其他ハ一樣二百二十「ミルレイス」ヲ給ス但幼樹ヲ受持ツ者ハ樹間ニ自作物ヲ栽培スルコトヲ許サレ一面草取りヲシツ、自己ノ作物ニ手入ヲ加フルノ利便アルヲ以テ移民ノ為メニハ手入賃高キ老樹ヲ受持ツヨリモ却ツテ利益多シ

次ギニ咖実採取賃ハ「ウニオン」耕地ニ於ケル一袋「ミル」五百「レイス」ヲ最上率トシ其他ノ十一耕地ニ於テハ總ベテ「アルケイリ」(約半袋)ニ付六百「レイス」トス若シ移民ヲシテ咖実収穫期中、採取以外ノ日傭労働ニ従事セシムル場合若クハ咖樹手入期ニ入り臨時ニ日傭労働ヲ課スル場合ニ於テ移民ニ支払フ日給ハ「サンタ、アメリカ」、「サンタ、ガブリエラ」、「ベラ、ギスタ」及「サンタ、マリーヤ」ノ四耕地ニ限り式「ミル」五百「レイス」ナレドモ其他ノ八耕地ニ於テハ均一ニ三「ミルレイス」ヲ給与ス移民ノ自作ノ為メニ耕主ヨリ貸与スル土地ノ種類、面積及耕作ヲ許可スル作物ノ種類モ亦各耕地毎ニ大同ナレドモ而

ト同一耕地ト見ルコトヲ得ベク「バイシアドン」、「ウニオン」、「サンタ、アメリカ」、「サンタ、リタ」及「サンタ、ジュシヤ」ノ五耕地ハ昨年初メテ竹村取扱伯国第三回移民ヲ試用シ成績良好ナリシニヨリ本年モ引續キ我が新移民ヲ採用セルモノナレバ此等耕地ニハ現ニ前回渡航ノ旧移民在留労働中ニシテ大ニ新移民ヲ安堵セシムルノ効アルベシ呼寄移民ノ内長崎県人男一名熊本県人男二名計三名ハ「モリソン」植民地在留者ノ呼寄ニ係ルヲ以テ同植民地ニ入り其他ハ大概前年ノ竹村取扱移民ヲ配置シタルモ本年ノ家族移民供給ヲ見合セタル「コンキスタ」、「パウアルト」、「サンタ、オリムピヤ」、「グワタパラ」等ノ數耕地ニ於テ現ニ労働中ナル呼寄人ノ許ニ州政府ノ費用ヲ以テ家族移民ト同様ニ最近停車場マデ送遣セラレ夫ヨリ耕地マデハ耕主ノ費用ニテ運搬セラレタリ又男女各一名丈ケハ例外トシテ「サンパウロ」市ニ留マリ労働スルコト、ナレリ本邦移民ト咖啡園主ト労働契約ヲ結ブニ當リ一般条件ト称スルモノハ州内何レノ耕地ニ於テモ全然同一ナレドモ特別条件ノ名稱ヲ有スル賃銀支給額ハ各耕地毎ニ多少ノ差異アリ即チ咖啡樹手入賃ハ樹數千株ヲ單位トシ「サンタ、ジュシ

カモ小異アリ

之ヲ要スルニ竹村取扱移民ハ種々ノ点ニ於テ一回毎ニ改良セラレ本年渡航セシメタル移民ノ如キモ之ヲ募集スルニ當リテ概シテ純良ナル農民ヲ精選シ且家族ノ構成如何ニ注意シタル形迹アリ又移民ヲ就地セシムベキ耕地ノ選定ニ関シテモ「サンパウロ」市ニ於ケル業務代理人ハ注意ニ注意ヲ加ヘテ優良耕地ヲ選ビ仮令耕主ガ年来ノ顧客タル場合ニ於テモ契約条件ノ劣レルモノ、移民待遇法ノ不良ナルモノ及本年ノ作柄悪シキ耕地ハ断然移民ノ配送ヲ謝絶シ而カモ成ルベク從來本邦移民ヲ試用シテ其ノ真価ヲ解シ且移民モ満足シテ引續キ残留労働セル耕地ニ新移民ヲ就地セシメタリ尚ホ本回ノ移民契約耕地十二箇所ニハ各一名ヅ、ノ通訳ヲ置キ過半ハ既ニ一年以上耕地通訳トシテ自ラ其ノ適任者タルコトヲ証明シ今回初メテ通訳トナリシモノモ亦能ク耕地ノ事情ニ精通シ通訳兼移民監督トシテ適任ナルガ如シ

#### 乙 東洋移民合資会社取扱移民

東洋移民合資会社ノ手ヲ經テ伯国「サンパウロ」州ニ渡航センガ為メ本年三月三十日神戸港ニ於テ日本郵船株式会社汽船若狭丸ニ搭乘シタル本邦移民ハ別表第三号ニ掲記セル

如ク契約農業移民三百九十四家族此ノ人員千四百九十七名、呼寄移民七十二名、職工移民十九名通計千五百八十八名ニシテ此ノ内家族移民ハ広島、熊本、福岡、福島、佐賀、岡山、愛知、岐阜、山口、三重、滋賀及長崎ノ十二県ニ於テ之ヲ募集シ就中広島県ノ八十七家族ヲ筆頭トシ熊本、福岡及福島三県ハ孰レモ七十家族以上ヲ出シ最少キハ三重、滋賀及長崎ノ三県ニシテ各五家族ヲ出セルニ過ギズ

本邦移民運送船若狭丸ハ三月三十日午後二時三十分神戸港ヲ発シ四月九日午後六時五分新嘉坡ニ入港、翌十日午後零時二十分抜錨、同月二十七日午後四時十分南阿「ポート、ナタル」着、同港ニ於テ石炭ヲ補充シ翌々二十九日午前七時十分伯國サントス港ニ向ヒ解纜ス而シテ航海中ノ天候ハ神戸出帆後ナタル到着マデ概シテ順良ニ海上平穩ナリシモ「ナタル」、「サントス」港間ハ天氣慨シテ悪シク海上波濤稍々高クシテ船体動揺セシガ幸ニシテ安全ナル航海ヲナシ五月十五日午後二時四十五分予定ヨリモ一日早ク目的地ニ到着セリ即チ神戸、「サントス」間ニ要シタル日数前後四十七日、内實際ノ航行時間四十四日ト二十四分間ニ一万千八百三十六哩ノ距離ヲ航行シタルモノニシテ速力一時間平均

ノ事故ニヨリ移民ノ在船日数延長スルコトアリトモ更ニ二十日間ハ之ヲ給養シ得ル様、米麦、味噌、醬油、漬物、干物、罐詰等ノ如キ重要食料品ヲ余分ニ備附ケ、最後ニ非常準備トシテ移民全数ニ対シ六食分ノ「シービスケット」ヲ用意シ而シテ食料品中變質變味ノ虞アルモノハ或ハ鍼力罐ニ納メ或ハ荷造法ニ注意シ若クハ特殊ノ庫中ニ貯ヘ大人一名一日ノ食量ヲ白米六合並ニ相当ノ菜汁ト定メ隨時之ヲ加減スルコト、シ脚氣病予防ノ為メ四月四日ヨリ五月十二日マデ三十九日間ハ麦二割ヲ混和シタル麦飯ヲ供給シ一人一日ノ食料見積價格凡四十錢ニ當レリ尚ホ船中ニ於テハ慰安ノ為メ毎週一二回ノ割合ヲ以テ酢子、素麵、汁粉、赤飯ノ類ヲ饗シ又時々煎餅、花菱、煎豆、菓子等ヲ与ヘ其ノ度数実ニ三十回ノ多キニ及ビ且食事ハ総ベテ汽船会社賄ニシテ熱帯地航行ノ故ヲ以テ「ラムネ」及「サイダー」ニ限り一瓶金十二錢ノ定価ニヨリ移民ノ需要ニ応ジタレドモ其他間食物菓子等ハ一切船内ニ於テ販売セザリシトイフ若狭丸航海中移民ノ衛生ニ関スル準備ハ頗ル周到ニシテ船医二名ヲ乗組マシメ船内ニ病室、浴室及便所各々四箇所ヲ設ケ始終換氣法、移民ノ食物及運動等ニ留意シ移民ニ対シ

十一哩余ニ當レリ航海中移民ノ動靜ハ一般ニ平穩ニシテ能ク船内ノ規律ヲ遵守シ喧嘩、口論、賭博若クハ卑猥ノ舉動ナク又取扱向及飲食物等ニ対スル不平苦情ヲ聞カズ船内ノ秩序毫モ紊乱セザリキ從ツテ航海中異常ナル出来事トシテハ本船サントス入港ニ先ダツ僅ニ二日前即チ五月十三日午前四時頃広島県移民浜村吉平ノ妻カツ（三十九歳）ナル者失踪シ船内各所ヲ残ル限ナク搜索シタルモ遂ニ之ヲ発見スル能ハズ多分郷里ニ残セル子女ノ身ノ上ヲ案ジ過ゴシタル結果、精神ニ異常ヲ呈シ海中ニ投身セルモノト認定セラル、一事件アルノミニシテ其ノ他流産二件ヲ除キ航海中移民ノ死亡セルモノ皆無トシ又出産十四件アリテ出生兒男女各々七名合計十四名ヲ得母子共ニ健全ニ到着シタルハ実ニ異數ノ幸福トイフベシ

移民航海中ノ糧食ハ人員總數千五百八十八名ノ内三歳以下ヲ計算外トシ三歳以上七歳マデハ四名ヲ以テ大人一名ト算ヘ七歳以上十二歳未滿ハ二名ヲ以テ大人一名ト見做シ其ノ換算數千四百八名ノ在船日數ヲ約五十日ト見積リ之ニ相當スル分量ヲ本準備トシテ搭載シ、次ギニ副準備トシテ不測テハ乗船後直ニ船内衛生ニ関スル注意事項ヲ掲シシ船長ハ毎日午前十一時事務長ト共ニ各船室ヲ初メ浴室、便所ニ至ルマデ精細ナル檢視ヲ行ヒ移民室ハ毎日數回清洗スル外、一回ハ二十倍石炭酸ヲ散布シテ消毒ヲ行ヒ甲板上ハ一日數回海水ヲ以テ清洗シ便所内ノ便槽ハ絶エズ蒸氣力ニテ導水管ヨリ海水ヲ漑ギテ糞尿ヲ洗ヒ流シ周圍ハ一日數回海水ヲ以テ清洗スル外、毎朝二十倍石炭酸ヲ以テ消毒シ入浴ハ隔日ニシテ通常海水ヲ用フルモ時々淡水浴ヲ与ヘ又本船ノ中央ニ在ル診察室兼藥局ニ於テハ毎日午前九時ヨリ午後五時マデヲ診察時間ト定メ急病人アルトキハ仮令時間外ト雖診察治療ヲ行ヒ、四箇ノ病室ハ之ヲ産室一、普通病室一、伝染病室二トシ移民中ヨリ男二名女三名ヲ選拔シ且本船ヨリ適當ナル日給ヲ与ヘテ医員ノ助手及看護婦タラシメ航海終了ノ際之ニ支払ヒタル給金總計五百數十円ニ上レリ而シテ航海中船医ノ診察ヲ受ケタル患者數ハ出帆後漸次増加シテ百名乃至百五十名トナリ印度洋航行中四月十五日頃ヨリ數日間ハ一時二百名前後ニ達シタルコトアリト雖、同一人ニシテ數回診察ヲ受ケタル者アルヲ以テ結局船医ヲ煩ハシタル移民ハ三百四五十名ニ過ギズ且移民間ニ最普通ナリシ疾

病ハ神戸出帆後數日間ニ在リテハ船暈ノ外、初回種痘ノタメ小兒ノ発熱ヲ主トシ其後ニ至リテハ感冒、偏頭痛、便秘、氣管枝加答兒、扁桃腺炎、胃加答兒、腸加答兒等ノ患者アリ概シテ輕症ニシテ多クハ船内治療ニヨリテ速ニ快方ニ赴キ「サントス」港到着當時僅々數名ノ輕症者アリシノミニシテ上陸ニ際シ担架ヲ要スル如キ重病患者皆無ナリキサレバ五月十五日午後二時四十五分若狭丸「サントス」港内ニ進入投錨スルヤ檢疫医一名同船ニ來リ先ヅ出發港及寄港地ニ於ケル健康証明書、乗組船医ノ健康証明書等ヲ檢閲シ次ギニ現在病者ノ有無ヲ尋問シタル後、船医同道ニテ病室内ニ於ケル現在患者ヲ視診シ且室内ノ清潔及掃除ノ如何ヲ一見シタルノミニテ例ニ依リ移民全体ノ檢數並ニ健康診斷ヲ省キ茲ニ簡單ナル檢疫了リテ直ニ檢疫申請旗ヲ取下サシメタリ

斯クテ若狭丸ハ檢疫了後即日移民ヲ上陸セシムルコトニ期待シ居リタレドモ当日恰モ仏國定期船「プロヴンス」号ニテ六百六十名、伊國汽船「ドユカ、デリ、アブルッチ」号ニテ五百八十一名、同「サンパウロ」号ニテ八十名通計千三百有餘名ノ歐洲移民（西班牙人、葡萄牙人及若干ノ伊

太利人）來著シ此ノ方先ヅ上陸スル順序ナリシヲ以テ本邦移民ノ上陸ハ翌日マデ繰延バズノ止ムヲ得ザルニ際會セリ仍テ本船ハ翌十六日午前十一時波止場ニ横附ケシ移民上陸ニ関スル船内ノ準備亦全ク整ヒタルニ拘ラズ生憎上記歐洲移民ノ大部分ヲ前日サンパウロ市收容所ニ輸送シタル後ノ事トテ迅速ニ移民輸送列車ヲ用意セシムルコト能ハズ頻々督促ノ末、數時間ヲ経テ午後二時ニ至リ二等客車十四台ヨリ成ル一列車倉庫ノ外側マデ到達セリ而シテ移民輸送列車ハ通例之ヲ運送船ト接触スル様倉庫ノ内側即チ波止場内ニ引込ムト雖、今回ニ限り支障アリテ前記ノ如ク倉庫ヲ隔テ、汽車ヲ止メ且此ノ際折悪シク雨降出シタルヲ以テ須臾ニシテ雨霽ル、マデノ間ニ上陸シタル最初ノ移民約二百名ハ汽船ヨリ列車マデ十數間ノ距離ヲ雨中ニ歩行シ前數回ノ本邦移民上陸トハ稍々其ノ趣ヲ異ニセリ而シテ移民ノ大部分即チ千四百數十名ハ午後五時頃マデニ上陸ヲ了リタレドモ列車ハ既ニ悉ク滿員トナリテ立錫ノ余地ナク且同刻限マデニ補給ヲ受クル筈ナリシ客車ノ追送遂ニ行ハレザリシヲ以テ止ムヲ得ズ熊本県人ノ一部百三十三名ヲ積殘シ我ガ移民輸送列車ハ間モナク「サンパウロ」市ニ向ツテ出發シ夜ニ

入り移民收容所ニ到着、殘余ノ移民ハ翌十七日午前十一時三十分マデニ悉皆上陸シ汽車ニテ晚「サンパウロ」市着移民收容所ニ入レリ尚ホ若狭丸ハ移民上陸ノ際一同ニ「シービスケット」ヲ配与シ離船後收容所ニ到着スルマデ數時間ヲ要スルヲ以テ汽車中ニテ要スル弁當ニ代用セシメタリ（竹村取扱移民ハ遺憾ナガラ此ノ注意ヲ欠キタリ）

本移民ノ上陸ハ竹村取扱ニ係ル第二雲海丸輸送移民ト等シク移民局吏員、移民会社代理人及事務員、耕地通訳等ノ指揮監督ノ下ニ極メテ平穩ニ且順序正シク行ハレ其ノ景況彼は大差ナキヲ以テ茲ニ再述スルノ煩ヲ省ク但、見物ノ為メ波止場ニ群集シタル人数ハ第二雲海丸移民上陸ノ際ニ比シ一層多クシテ百名ニ余リ内二三十名ノ本邦旧移民アリ上陸移民中婦人及小兒ニシテ往々和服ヲ着ケ下駄ヲ穿チ又男子中ニモ往々風体奇異ナルモノアリテ格別醜体ト評スベキ程度ニハアラザルモ為メニ見物人ヲシテ時々抱腹セシメタレドモ見物人中一人トシテ移民ニ向ヒ嘲弄の言語ヲ發シ若クハ反抗的挙動ヲ示ス者ナカリキ

移民携帯手荷物ノ箇數ハ總計三千個ニ垂ントシ竹村取扱移民ヨリモ更ニ多量ナリシヲ以テ五月十六日正午ニ陸揚ヲ開

始シ波止場ニ於テ船側ヨリ直ニ貨車ニ搭シタルニ拘ラズ波止場人足ハ夜間労働セザル習慣ナレバ漸ク翌十七日午後ニ至リテ全部ノ陸揚ヲ終リ三列車ニ分チテ之ヲ「サンパウロ」市ニ送リタルガ内二列車ハ十八日ニ、残りノ一列車ハ一日遅延シテ十九日ニ移民收容所ニ到達セリ而シテ五月十八日ハ日曜日ニ当リタルヲ以テ十九日税関検査官立會ノ上前日到着セル手荷物ノ通関及引渡シヲ行ヒ十九日晚到着ノ分ハ翌二十日午前中ニ悉皆引渡済トナリ検査官ノ態度ハ例ニ依リ頗ル寛大ニシテ大概ハ無検査通関ヲ許シタレドモ有税品在中ノ嫌疑アル荷物ハ時々之ヲ開装セシメタリ

東洋移民会社取扱移民ハ「サンパウロ」市收容所ニ於テモ竹村取扱移民程ニ幸運ナラザリキ何トナレバ同收容所ハ優ニ三千名ノ移民ヲ宿泊セシムルニ足ル設備アリト雖、恰モ我ガ移民入所ノ際ニハ約千二百名ノ先着歐洲移民現在シ此内約半数ノ移民十八日ニ耕地ニ向ヒ出發スルマデ稍々窮屈ヲ感ズルト同時ニ幾分ノ混雜ヲ免レザリシヲ以テナリ然レドモ本邦移民ハ決シテ歐洲移民ト衝突スルガ如キコトナク一般ニ能ク所内ノ規律ヲ守リ移民会社代理人、事務員及耕地通訳等繰出ニテ移民ノ為メニ諸般ノ便宜ヲ図リ移民總代



及組長ハ各自其ノ部下ヲ取締リ食事分配ノ如キモ秩序正シク行ハレ所長ヲシテ本邦移民五百名ノ一団ハ歐洲移民五十名ヨリモ静肅ニシテ統御シ易シト歎賞セシメタリ  
移民ガ収容所滞在中ニ起リタル出来事トシテハ小児一名病死シタルヲ挙ゲ得ル而已ニシテ其他ノ状況ハ竹村移民ト大同小異ナルヲ以テ茲ニ再述セズ

予約耕地ニ本邦移民配送ノ順序ハ竹村取扱移民ノ例ニ倣ヒ前以テ労働契約文ヲ掲記セル移民手帳並ニ食券等ヲ準備シ移民ガ収容所ニ到着シタル翌日即チ五月十七日全日ヲ費シテ移民ノ身元調及耕主トノ労働契約調印ヲ行ヒ翌十八日ハ日曜日ニ当レルヲ以テ静ニ休養セシメ遲着移民ノ身元調契約調印ハ十九日ニ之ヲ了レリ而シテ移民携帯手荷物ノ通関モ既記ノ如ク十九、二十日両日ニ終結ヲ告ゲ耕地別ニ之ヲ整理シ了リタルニヨリ茲ニ本邦移民耕地行ノ準備成リ収容所長ハ二十一日中ニ全部ヲ出発セシメントシタレドモ鉄道会社ノ方ニテ汽車ノ用意困難ナリシ為メ二十一、二十二両日ニ配送ヲ試ミ尚ホ一耕地分丈ケ積残シタルヲ以テ此分ハ二十三日早朝耕地ニ向ヒテ収容所ヲ送シ結局二十一日ヨリ二十三日ニ至ル三日間ニ移民全部ヲ送出スルコトヲ得タリ

ナリ新移民百家族ヲ供給シタル結果同耕地ニ於ケル本邦移民ノ数合計二百家族ヲ超過シ外国移民トノ權衡上今ヤ優勢ヲ示スニ至リ「サンパウロ」全州ニ於テ目下最多數ノ本邦人ヲ備用セル耕地タリ  
呼寄移民中福島県人二十名ハ「ソブラド」耕地在留者ノ呼寄ニ係ルヲ以テ契約移民ト同時ニ同耕地ニ送ラレ同県人五名ハ「リオ、クラード」耕地ニ入り福岡県人ノ内十一名ハ別ニ「ウニオン」耕地ニ赴キ其他ハ「サン、ラファエー」ル、「サンマルティンニヨ」、「サンタ、アナ」、「サンタ、ジュシヤ」、「サンタ、アメリヤ」、「モンテ、アレグレ」等ノ諸耕地、「モンソン」植民地ニ於ケル各呼寄人ノ許ニ落着キ女二名ノミハ呼寄人其後サンパウロ市ニ転住セルヲ以テ同市ニ留マレリ

職工移民ハ大工十六名、石工三名ニシテ孰レモ「サンパウロ」市ニ於テ各自ノ職業ニ就ケリ  
咖啡園ニ配送セラレタル農業者家族移民ノ労働契約条件中特殊条件ト称シテ約定セル賃銀等ハ左記ノ如シ

(イ) 咖啡樹受持手入賃一ケ年千本ニ付  
百三十「ミルレイス」ヲ給スル耕地 二

尤モ一家族丈ケハ家族中ニ病人アリテ一時残留シタルモ此ハ後ヨリ契約耕地「グワタパラ」ニ送遣セラレタリ  
今回渡航ニ係ル東洋移民会社取扱移民ヲ就地セシメタル咖啡園ハ別表第四号(註省)ニ示セル如ク総ベテ十七箇所ナルガ此ノ内本年初メテ日本移民ヲ試用スルモノハ「プロレスト」、「サンジュアン」及「サンタ、エルネステイナ」ノ三耕地ニシテ既ニ本邦移民使用ノ経験ヲ有スル十四耕地中「アラクワ」農業会社ノ咖啡園「ソブラド」ハ皇國殖民会社取扱第一回移民及竹村取扱第二回及第三回移民ヲ契約シタルモ今回初メテ竹村及東洋ノ各代理人双方熟議ノ上ニテ後者ヨリ移民ヲ供給スルコト、ナリ残余ノ十三耕地ハ孰レモ昨年ノ東洋取扱移民ヲ備用シタル耕地ナレバ内二三ヲ除クノ外ハ多少旧移民ノ残留セザル箇所ナク而シテ此等先達移民ノ存在ハ一面耕地ノ有望ナルコトヲ立証スルト同時ニ他面ニ於テ新着移民ヲ示導慰撫スルノ利便アルヲ以テ本年度移民ハ前回渡航者ノ如ク続々耕地ヨリ逃亡スルコト無カルベシ尚ホ「グワタパラ」耕地ハ第一回以來常ニ本邦移民ヲ採用シテ比較的好成績ヲ挙ゲ客年ハ竹村ヨリ四十家族、東洋ヨリ九十九家族ヲ採リシガ本年ハ東洋移民会社ノ独占ト

百二十「ミルレイス」ヲ給スル耕地 九  
百十「ミルレイス」ヲ給スル耕地 三  
百「ミルレイス」ヲ給スル耕地 三  
別ニ例外トシテ「サンタ、エウドシヤ」耕地ニ於テ  
百五「ミルレイス」、「アルレオーポリス」耕地ニ於テ八十「ミルレイス」ヲ規定シ後者ヲ十七箇所ヲ通ジテノ最低率トス  
(ロ) 咖啡採取賃「アルケイリ」ニ付  
「ノッサ、シニョーラ、デ、コンセイソン」及「アウレオーポリス」ニ耕地ニ限リ五百「レイス」ナレドモ其他ハ総ベテ均一ニ六百「レイス」ヲ給ス

(ハ) 日傭労働賃銀  
三「ミルレイス」ヲ給スル耕地 五  
二「ミル」五百「レイス」ヲ給スル耕地 十一  
「ジャクティンガ」耕地ノミハ二「ミル」五百「レイス」又ハ三「ミルレイス」ト定ム  
(ニ) 移民ニ貸与スル土地  
或ハ咖啡樹間ニ間作ヲ許シ或ハ園外ニ於テ別ニ土地ヲ貸与シ各耕地多少其趣ヲ異ニシ且其貸与スル土地面積

ニモ広狭ノ差アリテ必シモ一定セズ

尚ホ本回ノ移民ヲ就地セシメタル十七耕地ノ内「グワタパ  
ラー」耕地ハ別ニ通訳ヲ要セズ「パウダリヨ」及「レオポ  
ルディナ」ノ二ハ本邦移民少数ナルガ上、相接近セルヲ以  
テ二箇所兼勤ノ通訳一名ヲ置キ其他ハ一耕地毎ニ一名ノ日  
本人通訳ヲ備用セシメタルガ合計十五名ノ内七名ハ既ニ前  
回ヨリ通訳ノ任ニ當リ孰レモ相當ノ經驗ト技術ヲ有スレド  
モ他ノ六名ハ今回東洋移民会社練習生トシテ新ニ渡来シタ  
ル青年ナレバ各自一外國語ニ通ゼルニ拘ラズ耕地ノ事務ニ  
慣ル、マデ當分ノ内故ラニ其ノ俸給ヲ低クシ別ニ旧移民中  
ヨリ一名ノ補助者ヲ選抜シ之ニ若干ノ報酬ヲ与ヘテ自身勞  
働ノ傍ヲ通訳ヲ助ケテ新入移民ノ労働ヲ監督セシムル方法  
ヲ採用セリ残り二名ハ今回新ニ旧移民中ノ成績優良ナル者  
ヲ選抜シテ通訳ノ任ニ當ラシメタルモノトス  
要スルニ本年渡航ノ東洋取扱移民ハ昨年ノ經驗ニ基キ募集  
上一層ノ注意ヲ加ヘタルモノ、如ク且其ノ輸送船ノ設備整  
頓セルコトハ竹村移民取扱人ノ備船ノ到底企テ及バザル所  
ニシテ航海中移民ノ幸下幸ニ顯著ナル差異アリタルハ今更  
喋々スルヲ須ヒズ然レドモ移民局員其他ノ官憲ヲ操縦シ優

在伯

臨時代理公使 藤 田 敏 郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

サンパウロ市出張中ノ野田一等通訳官ヨリ秋季ニモ本邦移  
民ヲ渡航セシムルヲ可トスル意見書提出致候間以別紙及進  
達候春秋二期ニ渡航ヲ御許可相成リ「サンパウロ」州政府  
モ同意致候ハ、既ニ上申致候通り定期航路ヲ開ク便益有之  
搭載荷物モ増多シ從テ本邦貿易拡張ノ一端ト相成且移民モ  
良設備アル船舶ニ便乗シ而モ船賃低廉トナリ甚ダ以テ好期  
合ト存候秋季来伯ノ移民ニ直チニ咖啡採収賃銀ヲ得サル不  
利アレ共到着早々小作人トナリ月々小作料ヲ領収シ傍ラ自  
作物ヲ耕耘スルノ利益アリ之ヲ一年ニ通算スルトキハ春秋  
来伯移民間更ニ利不利無之候ニ付各移民会社ハ移民募集ノ  
際其辺ヲ充分納得セシメ目前ノ利益ヲ追ハサル純農民ヲ募  
ル必要有之候時期移民モ客歳来実行致候如ク予メ確実ナル  
耕主ト契約シ到着ノ上直チニ夫々耕地ニ配置スルコト春期  
移民ト同一ニ取扱フベキハ申ス迄モ無御座候

右進達旁々申進候 敬具

(附屬書)

良耕地ヲ選抜スル等移民到着後ノ取扱振ニ於テハ竹村ノ方  
古參ニシテ經驗ヲ積メルダケ稍々優勝ノ地位ヲ占メ東洋ハ  
尚未ダ竹村ニ及バザルノ憾ナキ能ハズ若シ夫レ移民ノ人選  
真ノ宜シキヲ得タリヤ、移民就働耕地ノ選抜ヲ誤ルコトナ  
カリシヤ、通訳ニ果シテ適任者ヲ得タリヤ將又移民取扱人  
代理人ノ斡旋能ク行届ケルヤ否ノ諸点ニ至リテハ之ヲ今後  
ニ於ケル一般移民ノ動靜及其労働成績ニ徴セザルベカラズ  
右及報告候也

大正二年五月二十八日

在伯国(サンパウロ市出張中)

公使館一等通訳官 野 田 良 治(印)

註 別表省略

一八四 六月十二日 在伯国藤田臨時代理公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

本邦移民ノ伯国渡航ヲ秋季ニモ行ハシムベシ  
トスル野田通訳官ノ意見書提出ノ件

附屬書 右野田通訳官意見書

公第五三三号

(八月七日接受)

大正二年六月十二日

伯国サンパウロ州咖啡園行本邦移民ヲ秋季ニ

モ渡航セシムルヲ可トスル野田通訳官意見書

伯国「サンパウロ」州咖啡耕地ニ於テ労働スベキ本邦農業  
家族移民誘入ニ関シ同州政府ト竹村与右衛門及東洋移民合  
資会社トノ間ニ締結シタル契約書第一条ヲ以テ本邦移民ハ  
成ルベク(De Preference)四月、五月又ハ六月中ニ「サン  
トス」港ニ到着セシムルコトヲ要スト規定セリ是レ畢竟咖  
実ノ收穫ハ地方及耕地ヲ異ニスルニ從ヒ多少其ノ趣ヲ異ニ  
スレドモ早キハ三月下旬晚キモ五月ニ入レバ開始セラル、  
モノナレバ此ノ期節ノ初頭ニ於テ最多數ノ労働者ヲ要シ続  
々入来スル外國移民幾千百名ヲシテ頗ル容易ニ雇口ニ就カ  
シムルコトヲ得ベク且ツ咖啡採ハ甚ダ簡易ナル労働ナ  
レバ婦人小兒ノ輩ニ至ルマデ之ニ從事シ賃金ハ各自ノ摘採  
量ニ応ジテ仕払フ習慣ニシテ移民ハ他人ノ奨励ヲ俟タズ各  
々其ノ業ニ勉勵スルノ利便アルニ因ル彼ノ皇國殖民合資會  
社取扱第一回移民ガ明治四十一年六月十八日ニ「サント  
ス」港ニ到着シタルヲ始トシ第二回移民(竹村取扱)ハ明  
治四十三年六月二十八日ニ第三回移民ハ昨明治四十五年四  
月下旬ニ本年渡航ノ第四回移民ハ五月初旬及中旬ニ孰レモ

之ヲ「サントス」港ニ到着セシメタル所以亦実ニ茲ニ存ス先例斯クノ如クナルヲ以テ「サンパウロ」州咖啡園行労働者ハ必ズ之ヲ咖実收穫期ノ初頭（以下之ヲ春期渡航ト名ク）ニ着伯セシムベク然ラザレバ移民ハ渡航後容易ニ雇口ヲ発見スル能ハザルカ若クハ甚ダ不利益ナル条件ヲ以テ雇入レラル、ガ如キ不幸ニ陥ルナラント懸念シ他ノ季節ニハ断ジテ移民ヲ誘入スベカラザルモノナリトノ誤解ヲ招クノ虞ナシトセズ然レドモ本官ガ明治四十二年以來屢サンパウロ州ニ出張シ或ハ州政府当局者ノ意見ヲ叩キ或ハ咖啡耕地ニ於ケル労働ノ性質及慣習ヲ実地ニ見聞シ或ハ園主若クハ耕地支配人等ノ談話ヲ傾聴シテ反覆討究シタル結果ニヨレバ本邦移民ノ如ク数百家族ヲ特別ニ借切リタル汽船ニテ一時ニ輸送スルモノハ従来ノ春季渡航ノ外尚別ニ一回即チ收穫期末ニ渡航セシムルコトヲ得ベク（以下之ヲ秋季渡航ト称ス）又僅々四五十家族ノ少数移民ナレバ一ケ年ヲ通ジテ何レノ季節ニ渡航セシムルモ敢テ不可ナシト信ズ

今其ノ理由ヲ陳述スルニ先ダチ咖啡園ニ於テハ甲年ノ收穫結了ノ時ヨリ乙年ノ收穫ヲ終ルマデ滿一年間ヲ農年ト称シ労働契約ハ一農年ヲ期限トシテ締結及更新スル習慣ナルコト即チ真ノ契約第二期ニ当リ本期中移民ノ労働ハ仮契約ノ一期間ト同ジク専ラ咖実收穫ニ従事スレドモ其ノ収入ハ摘採賃ノ外受持咖樹手入賃年額ノ半分アリ

第一期労働中ハ咖実摘採賃中ヨリ移民ノ生活費ヲ支弁スルヲ要スレドモ本期ニ於テハ手入賃月割額ヲ以テ生計ヲ立テ咖実摘採賃ハ全部之ヲ貯蓄スルコトヲ得

然リ而シテ従来ノ例ニヨリ春季ニ渡来スル本邦移民ハ就地ニ際シ向フ一年半ノ間耕地ニ於テ労働スベキ約束ヲナシ第一期六ヶ月間ハ仮契約ノ姿ニテ専ラ咖実採取ノ業ニ従ヒ其ノ後ノ一年間真ノ契約移民即チ小作人トシテ労働スルモノトシ又本官主張ノ秋季到着移民ハ前記第一期ノ仮契約労働ニ服セズシテ一足飛びニ直ニ小作人トナリ第二期及第三期ノ一年間労働シ其ノ後ハ彼此共ニ全然同様ニ一農年ヅ、労働契約ヲ更新継続スルモノナレバ詮ズル所春季渡航者ト秋季渡航者ノ間ニ毫モ不利ノ差別懸隔ナキコトハ殆ド弁ヲ費スノ要ナカルベク若シ強ヒテ相異ノ点ヲ求メシカ〔第一〕春季渡航移民ハ收穫期末即チ就地後六ヶ月余ヲ経テ總勘定ト称スル決算ノ結果自己ノ収益トシテ残レル金額ヲ受取り郷里ニ送金スルコトヲ得ル利アリト雖同期中ノ収入タルヤ

ト並ニ一農年ニ先ダツ半年ノ收穫期ハ仮リニ契約期間ニ算入スル場合多ク合セテ一年半ヲ左記ノ三期ニ區別シ得ルコトヲ一言シ置カザルベカラズ

第一期 咖実摘採期（四五月頃ヨリ其年ノ十月頃マデ約六ヶ月）

即チ仮契約ノ時期ニシテ移民ハ未ダ咖啡樹受持ノ小作人トナラズ専ラ咖実摘採ノミニ従事シ採取賃以外ニ他ノ収入ナシ

第二期 咖園手入兼自作物栽培期（十月頃ヨリ翌年ノ四月頃始マデ約六ヶ月）

即チ真ノ契約第一期ニシテ移民ハ家族ノ大小ニ応ジ每家族幾千本ノ咖啡樹ヲ受持チ千本ニ付年額百乃至百三十「ミルレイス」ノ手入賃ヲ得ツ、園内ノ草取ニ従事スル傍ラ咖啡樹間又ハ別ニ貸与セラル、土地ニ玉蜀黍、豆等ノ自作物ヲ播附ケ期末マデニ之ヲ收穫ス而シテ咖樹手入賃ハ年額月々ニ割当テ給与スルヲ以テ本期中移民ハ其ノ月割額半年分ト自作物ト二重ノ収益ヲ得ルモノトス移民毎月ノ食料ハ手入賃月割額以内ニテ足ルヲ通例トシ自作物ハ一部ヲ自家ノ消費ニ充テ残部ノ売上代金ハ本期ニ於ケル移民ノ純収益トナル

第三期 小作人トシテノ咖実摘採期（翌年ノ收穫期約六ヶ月間）

既記ノ如ク単ニ咖実摘採賃ノミニ限ラル、ヲ以テ偶々被雇耕地ガ結果不良ノ年ニ当レル場合ニハ其ノ所得ハ辛ウジテ同期間生計ヲ維持スルニ過ギズシテ殆ド貯蓄ノ余裕ナク時トシテハ却テ若干ノ負債トナルコトアリ〔第二〕秋季渡航移民ハ就地後六ヶ月ニシテ自作物ノ収益アリト雖耕地ニヨリテハ他ニ販売ノ便宜ナキタメ耕主又ハ支配人之ヲ買上ゲ其代金ハ移民通帳ニ記入シ置キ更ニ約半年ヲ経タル收穫期末ノ總勘定ニ於テ全一年間ノ収益ヲ一度ニ払渡スモノアリ即チ若干ノ例外ハアルベキモ一般ニ渡航後滿一ケ年ヲ経ザレバ国元ニ送金スルコト能ハザルヲ以テ此ノ点ハ稍不利益ナルノ觀ナキニアラズ然レドモ秋季渡航者ハ最初ヨリ直ニ二重ノ収入アル小作人トナルガ故ニ春季渡航者ノ如ク一期間咖実摘採賃ノミニ依頼スルモノト其収益決シテ同日ノ談ニアラズ一ノ欠点ハ他ノ優良点ヲ以テ之ヲ補フモノトイフベシ〔第三〕春季渡航移民ハ第一期中仮契約ナレバ耕主ハ該期末ニ於テ移民ガ自己ノ耕地ヨリ他ニ転ズルヲ束縛スル能ハズ且ツ移民ヨリ予メ期末ニ耕地ヲ去ル旨ノ意思表示ヲナストキハ耕主ハ之ガ代リノ移民ヲ求メテ雇入ル、コトヲ得ベキガ故ニ強ヒテ移民引留策ヲ講ゼズ之ガ為メ却テ本邦移

民ヲシテ小作人トナルノ前被雇耕地ヲ去ルニ至ラシムルノ失アリ然ルニ秋季渡航者ハ一躍シテ小作人トナリ向フ一年間手入ヲナス契約ニテ咖啡樹幾千本ヲ預リ若シ正當ノ理由ナクシテ中途ニ之ヲ遺棄スルトキハ州法ノ認ムル賠償金(受持咖啡樹手入賃年額ノ半分ナレバ例之ヘバ千本百三十「ミルレイス」ニテ五千本ヲ預ル家族ノ賠償金ハ三百二十五「ミルレイス」トス)ヲ耕主ニ仕払フ義務アルガ故ニ此ノ束縛ハ却テ本邦移民ヲ一年間能ク耕地ニ落着カシムルノ利アリ要スルニ一利ノ存スル所一害ノ之ニ伴フヲ免レズト雖彼此対照スルトキハ結局春秋兩季共ニ本邦移民ヲ渡航セシムルニ適當ニシテ一ヲ是トシ他ヲ非トスルノ理由ナンシシヤ咖啡園主中ニハ歐洲移民最多數ニ入国シ且ツ伯國労働者ニシテ咖啡摘採ノミヲ目的トシテ一時他州ヨリ入込ム者多キ收穫期ニ際シテ咖啡摘採労働者ヲ求ムルコトハ比較的容易ナレドモ該期末ニ至リ向フ一農年ヲ通ジテ咖啡樹ノ手入ヲ行フベキ小作人ヲ得ルコト却テ困難ナルニヨリ日本移民ハ更ニ收穫期末ニモ之ヲ渡航セシメラレシコトヲ希望スル旨本官ニ提議シタル者サヘアリテ三千五千ノ本邦移民ハ予メ確實ナル耕主ト内約ヲナシ渡航後直チニ之ヲ就地セシ

耕地(即チ所要ノ小作人ヲ雇入ル、能ハズシテ全園ノ手入行届カザルモノ)頗ル多キヲ以テ斯クノ如キ耕地ニ入りテ次ノ收穫開始マデ多クモ四五ヶ月間労働スレバ仍チ其ノ後ハ春季渡航移民ト均等ノ状態トナルベク勤勉ナル者ハ上記草取請負賃ノ内ヨリ生計費ヲ支弁シ尚若干ノ貯蓄ヲナスコトヲ得ベケレバナリ

蓋シ毎年七八万ヲ下ラザル外国移民ヲ收受スル「サンパウロ」州(換言スレバ其咖啡栽培事業)ノ立場ヨリ見ルトキハ成ルベク移民ガ労働者最大需要期即チ四、五、六月ニ來着センコトヲ望ムハ甚ダ道理アル所ナレドモ而カモ必ズ此等三ヶ月間ニ於テセザルベカラズト局限セルニアラザルコトハ前記州政府及移民取扱人間ノ契約第一条ノ文意ニ照シ明白ナルベク更ニ毎年纔ニ数千ノ移民ヲ送出スルニ過ギザル日本ノ側ヨリ考フルトキハ其供給移民全數ヲ歐洲移民群集ノ最中ニ渡航セシムルヨリハ寧ロ其半數ヲ割キテ之ヲ労働者ノ需要決シテ尠ナカラザル秋季ニ輸送スル方得策ナルベク只移民募集ニ際シ春季渡航者ハ移民取扱人トノ間ニ一ケ年半咖啡園ニ労働スベキ契約ヲ結び來リテ第一期労働ヨリ始メ第二期第三期ニ及ビ爾後一農年毎ニ契約ヲ更新継続

メ得ル見込十分ナルニ於テヲヤ次ニ四五十家族ノ少數ナレバ本邦移民ハ其何レノ季節タルヲ問ハズ之ヲ渡航セシムルモ差支ナシト信ズル所以ハ「サンパウロ」州ノ農場ニテハ常ニ労働者ノ欠乏ヲ感ジ州政府ノ労働周旋局ニ向ツテ移民備用ヲ申込メル耕地ノ數ハ最少キ季節ニ於テモ決シテ四五十ヲ下ラズ而シテ各耕地孰レモ五家族乃至三四十家族ノ移民ヲ要スルヲ以テ殆ド毎日ノ如ク「サントス」港ニ着スル汽船毎ニ或ハ二三十名或ハ七八十名(最多キ季節ニハ一船ニ數百名乃至二千名位到着ス)入国スル伊、西、葡諸國ノ自由移民ハ纔ニ其ノ需要ノ一部ヲ満スニ過ギズ從ツテ少數ノ本邦移民ガ比較的条件優良ナル耕地ヲ択ビテ容易ニ労働ニ就クコトヲ得ベキハ勿論ニシテ若シ此等移民ガ咖啡收穫期ノ中半ニ來着スルトキハ同期末マデハ専ラ咖啡摘採ニ從事シ之ヲ了ルト同時ニ小作人トナルコト春季渡航移民ニ等シク又秋季渡航移民ヨリ更ニ遅レテ到着スル移民ハ咖啡摘採モ出來ズ又小作人トシテ咖啡樹ヲ受持チ傍ラ自作物ヲ栽培スルコトモ不可能ナルヲ以テ稍不利益ナレドモ而カモ咖啡樹間ノ草取一回分千本ニツキニ十五「ミルレイス」内外ノ賃金ニテ請負労働ヲナシシムル

スルコト秋季渡航者ハ就地後一年間労働スル契約ニシテ第二期ヨリ始ムルヲ以テ送金ハ通例一年後ニ至ラザレバ実行シ難キコト等ヲ十分説明シ移民ヲシテ誤解セシメザル様予メ納得セシメ置クヲ必要ト思考スルノミ

尚卑見ノ如ク本邦移民ヲ春秋二季ニ輸送スルトキハ從來ノ如ク毎年異リタル汽船ヲ備ヒ其ノ都度全ク一時的ノ不完全ナル設備ヲナス代リニ特ニ伯國行移民運送汽船ナルモノヲ定メシメ千五百乃至二千名ノ多數ヲ搭載シテ五十日前後ノ長航海ヲナスニ適應スル様、移民船室、病院、浴室、便所、洗濯場等ヲ半永久的ノ完全ナルモノトナシ又無線電信、製氷、冷蔵等ノ設備ヲ加ヘシムルノ便宜アルノミナラズ斯クシテ年ニ二回定期ニ「サントス」港ニ來着スル移民船ハ從來ノ如ク空船ニテ帰航スル代リニ予メ荷主ヲ捜シ伯國港ヨリ先ヅ歐洲行貨物ヲ積ミ歐洲ヨリ更ニ東洋行荷物ヲ積ミテ蘇西經由帰航シ本部帰着後更ニ次回ノ移民ヲ搭載シテ來伯スル日伯歐三角定期航路ヲ開クコト、セバ或ハ移民運賃ヲ引下ゲ、或ハ日伯貿易ノ發達ヲ促シ、或ハ移民ノ家族呼寄及隨時帰國ニ多大ノ便利ヲ与ヘ結局日伯兩國ヲ大ニ接近セシムル連鎖トナリ其効果決シテ尠ナラザルヲ信ジテ疑ハズ

大正二年六月十日

在伯

公使館一等通訳官 野 田 良 治(印)

一八五 七月十二日 在伯國藤田臨時代理公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

伯國移民ハ寄港地ニ於テ其旅券ニ伯國領事ノ

査証ヲ要スルヤ否ヤニ關スル件

公第六三號

(九月十二日接受)

大正二年七月十二日

在伯臨時代理公使 藤 田 敏 郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本年二月廿四日付ヲ以テ在智利日置特命全權公使ヨリ伯國ニ渡來セントスル日本移民五、六名バルパライソ港ニ於テ英國太平洋汽船会社汽船ニ転乘旅行継続セントセルモ同地駐在伯國領事ハ右移民ノ携帶セル旅券査証ヲ必要ト為シ且同旅券査証上大ナル困難ヲ來タサシメ候趣ヲ以テ同月廿日付貴官宛公信写添付申越ノ次第有之候ニ付当国外務省ニ對シ本年三月六日覚書ヲ以テ本件ニ關シ説明ヲ求メ置候処同省ヨリ客月二十一日付別紙覚書原訳文ノ通り來伯外國移民

ハ旅行途中寄港地ニ於テ該地駐在伯國領事ノ旅券査証ヲ受クルノ必要無之單ニ旅券ヲ提示スルヲ以テ足ル旨回答有之候ニ付為念右報告ニ及ビ候 敬具

註 別紙覚書原訳文省略

一八六 九月十六日 牧野外務大臣ヨリ  
在伯國畑公使宛

伯國行移民旅券ノ査証ニ關スル法令調査回報

方訓令ノ件

通送第七四號

在伯國 畑公使宛

牧野外務大臣

本件ニ關シ本年七月十二日付公第六三號ヲ以テ藤田臨時代理公使ヨリ報告ノ次第有之候処曩ニ日置公使來信ニ依レバ本年二月九日香港丸ニテ「バルパライソ」ニ到着セル本邦移民中五、六名ハ同月十一日伯國ニ向ケ同港ヲ出帆スベキ英國太平洋汽船会社ノ船舶ニ転乘スル為メ会社ニ到リ切符ヲ購求セントシタルニ会社ハ之ニ對シ彼等携帶ノ旅券面ニ伯國領事ノ証明アラズンテハ切符ヲ発売シ難シト拒絶シタリト云フヨリ推スルニ同人等ハ本邦出發港ニ於テ其携帶旅券ニ伯國領事ノ査証ヲ受ケ居ラザリシモノ、如ク從テ彼等

移民取扱人業務代理人ニ於テ移民保護法規定

ノ嚴守方ニ付示達及上申ノ件

領第四六號

(十一月十九日接受)

大正二年九月二十四日

在リオデジャネイロ

總領事代理副領事 野 田 良 治(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

移民ガ渡航地外ニ転住シタルトキハ其ノ渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遲滞ナク其ノ氏名及転住地ヲ在留地及転住地ノ在外帝國官庁ニ届出ヅベク又移民ノ身上ニ關スル異変其他移民ニ關スル重要ナル事件發生シタル場合ニ於テ移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遲滞ナク其旨ヲ所轄在外帝國官庁ニ届出ヅベキコトハ移民保護法施行細則第十九條第一項及第三十條第二項ニ夫々明文有之尚ホ違反者ハ同細則第五十六條及第五十七條ニ照ラシ罰金ニ処セラルベキコトニ相成居リ候処移民取扱人竹村与右衛門並ニ同東洋移民合資会社ノ當國ニ於ケル業務代理人ハ孰レモ近來右規定ヲ嚴守致サズ其取扱ニ係ル本邦移民中或ハ重爾然丁共和国ニ転住シ或ハ同盟罷

ガ「バルパライソ」駐在伯國領事ニ旅券ノ査証ヲ求メタルハ全ク之レニヨリ出發港駐在伯國領事ノ査証ニ代ヘントシタルモノニテ貴館御調査ノ寄港地ニ於ケル單純ナル査証トハ其根柢ヲ異ニ致居候様被存候依テ本件ニ付テハ第一移民出發港ニ於テ旅券ニ伯國領事ノ査証ヲ受クルヲ要スルコトハ同國法ノ規定スル所ナリヤ第二出發港ニ於テ旅券ニ伯國領事ノ査証ヲ受ケサリシ者寄港地ニ於テ伯國領事ノ査証ヲ受ケタルトキハ第一問ノ査証ニ代ハル効力アリヤ第三出發港ニテ旅券ノ査証ヲ受ケタル者寄港地ニテ執ルベキ手續如何ト云フニ有之藤田代理公使ノ報告書ハ專ラ第三問ニ關セルモノニシテ第一第二ノ問題ハ依然了解致兼候ニ付此ノ点ニ對シ伯國ニ行ハル、法令ノ關係再應御取調ノ上何分ノ義御回報相成度尚ホ本年二月二十日在智利日置公使ノ稟申ニ依リ各地方長官東洋汽船株式会社及各移民取扱人ニ對シ別紙写ノ通り通牒致有之候条委曲右ニテ御了知相成度此段申進候也

註 別紙省略

一八七 九月二十四日

在リオデジャネイロ野田總領事代理  
ヨリ 牧野外務大臣宛

業ヲ企テントシ或ハ契約中縦ニ被備耕地ヲ去リ或ハ変死若クハ遭難スル者アルモ殆ド何等ノ届出ヲ為シタルコト無之移民保護ノ責務ヲ懈レルモノト相認メ候ニ付本月二十二日附ヲ以テ別紙写ノ通り両移民取扱人ノ業務代理人ニ対シ以後前頭規定ヲ厳守シ苟モ之ニ該当スル事故發生スルニ於テハ其都度必ズ詳細ノ事情ヲ具シ当館ヘ届出ノ義務ヲ履行スベキ旨示達致シ置候間右様御承知ノ上本省ニ於テモ右ノ次第ヲ両移民取扱人ヘ御示達相成候ト同時ニ今後若シ当國ニ於ケル当該代理人ガ移民保護法ノ規定ニ違反スル場合ニハ其都度当館ヨリノ上申ヲ俟ツテ同法所定ノ罰金ニ処セラルベキ旨ヲモ併セテ御嚴達相成候様致度別紙相添此段及上申候 敬具

(別紙)

写

竹第一五号

東第二〇号

大正二年九月二十二日

在リオデジャネイロ

野田総領事代理

移民取扱人竹村与右衛門業務代理人

上塚 周 平殿

東洋移民合資会社業務代理人

田口 道 造殿

移民保護法ノ規定厳守方注意ノ件

移民ガ渡航地外ニ転住シタルトキ及移民ノ身上ニ関スル異変其他移民ニ関スル重大ナル事件發生シタル場合ニハ移民渡航地ニ在留スル代理人ヨリ遲滞ナク之ヲ所轄在外帝國官庁ニ届出ヅベク違反スル者ハ罰金ニ処セラルベキ旨移民保護法施行細則中ニ夫々明文有之候次第ハ逐一御承知ノ答ト存シ候処最近約一年間ニ於テ移民ノ亞爾然丁共和国転住、同盟罷業、耕地離退、変死若クハ遭難等明カニ前頭規定ニ該当スル事件屢々發生シタルニ拘ラズ多クノ場合ニ於テ何等ノ届出ニ接セザリシハ甚ダ其意ヲ得ザル所ニシテ移民保護上決シテ黙過致シ難キ義ト相認メ候条自今以後苟クモ前記規定ニ該当スル事故ハ其都度必ズ詳細ノ事情ヲ具シ届出方御励行相成度此段特ニ及達示候也

一八八 十一月十日

牧野外務大臣ヨリ  
在伯国知公使宛(電報)

本邦移民ニ補助金交付方伯国議會ニ運動中ナ

ル青柳某ノ計画ニ関シ意見問合ノ件

附記 右計画ニ関スル青柳郁太郎ヨリ大浦兼武宛電報

写

第二〇号

青柳ヨリ大浦子爵宛電報ニヨレハ同人ハ毎年我移民一万人ヲ伯国ヘ移入シ先方ヨリ移民一人ニ付渡航費等百円ノ補助ヲ得ルノ特権ヲ得ン為議會ヘ運動中ノ趣ノ処右ハ貴官ノ尽力次第ニテ成効ノ見込アリヤ並ニ該計画ノ利害ニ関シ御意見電報アレ尚本件ハ拓殖会社ト關係ナク青柳一個人ノ事業ト認ムル処果シテ然ルヤ

(附記)

写 伯国行移民計画ニ関スル青柳郁太郎ヨリ大浦

兼武宛電報

日伯間定期航海ヲ開キ又移民事業ノ基礎ヲ確実ニスル為毎年移民一万人マデ適宜輸入ノ特権ヲ得ント今新議會ニ対シ運動中ナリ

議會領袖ハ大体賛成ナルガ故ニ此際我公使ニ於テ幾分援助アレハ事成ル見込畑公使ハ本計画ニ賛成ナレド外務省ヨリ

子爵 大浦兼武閣下

青柳郁太郎

一八九 十一月十四日

牧野外務大臣ヨリ  
在伯国知公使宛(電報)

青柳ノ補助金下附請願運動ノ相手議會及該計

画ノ旨意ニ付問合ノ件

第二一号

往電第二〇号ニ関シ

本件ハ中央議會サンパウロ州議會ノ中何レニ対シ運動中ナリヤ並ニ本計画ハ日本移民移入ノ全権ヲ一手ニ收メントスルニアリテ從テ本件成立ノ上ハ移民会社ト政府間ニハ直接

移民契約ヲ許サ、ル旨意ナリヤ併セテ回電アレ

一九〇 十一月十四日 在伯国畑公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

伯国行本邦移民ニ補助金交付方ノ運動ニ関ス  
ル青柳ノ計画ハ延期ヲ可トスル旨回答ノ件

第二〇号

貴電第二〇号ニ関シ青柳ノ計画ニシテ成立セハ邦人ノ海外  
發展及日伯通商航海ニ多大ノ利益アルニ付本官ハ主義ニ於  
テ成立ヲ希望スルモ青柳ノ所謂本官ノ援助ナルモノハ「サ  
ンパウロ」州副統領並農務大臣へ本官ヨリ書翰ヲ送ルニア  
リテ前者ハ向背未タ定マラサル因循ノ日本移民ヲ以テ今尚  
試験中ナリト思惟シ寧ロ我ニ好意ナキモノナレハ一面識ナ  
キ本官ノ形式の書翰ニ依リテ其意志ヲ動カシ得ヘントハ信  
セラレス又会期切迫シタル今日咄嗟ノ間州政府当局者ノ説  
ヲ動スニ足ル名案ナシ且「サンパウロ」議會ノ向背トテモ  
青柳ノ説ヲ信スル外本官ニハ確信ナシ去レハ本件ハ寧ロ之  
ヲ来年ニ延シ夫迄十分ニ研究ノ上種々ノ方面ヨリ当局者ノ  
意ヲ動カス策ヲ執リ然ル後提案スルヲ以テ成功ノ見込多カ  
ルヘント信シ其策実行ニ関スル本官ノ腹案モ青柳ニ申聞ケ

へ対スルモノニシテ契約ハ州政府ト同人ノ追テ組織スヘキ  
「シンヂケート」トノ間ニ締結セラル、管ナルニ付此ノ契  
約自身ガ別個ノ移民契約トナルモノニシテ現在ノ移民会社  
契約トハ全ク関係ナシ拙電第二〇号御参照アリタシ

一九二 十一月十五日 牧野外務大臣ヨリ  
在伯国畑公使宛(電報)

青柳計画ハ「サンパウロ」州行移民契約ノ独  
占ヲ意図スルヤ問合ノ件

第二二号

貴電第二二二号ニ関シ右ハ将来サンパウロ州ニ送ル移民ノ契  
約ヲ独占セントスルモノナリヤ

一九三 十一月十六日 在伯国畑公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

青柳ノ提案ハ独占の性質ヲ有セザル旨回答ノ  
件

第二三号

貴電第二二二号ニ関シ提案ハ何等独占の性質ヲ帶フルモノニ  
アラス然レトモ一万人契約締結ノ上ハ「サンパウロ」政府  
ト当分ノ間新移民契約締結ノ余地ナカルヘシ將又独占の

置キタリ然ルニ同人ハ伊国政府カ客年十二月勅令ヲ以テ移  
民輸送ノ為「サンパウロ」州政府ヨリ保護金ヲ受ケタル同  
国汽船会社ノ特權ヲ奪ヒタル態度(本年二月十八日公信第  
二三号拙信並三月十七日公信第二九号拙信参照)ヲ右汽船  
会社ノ運動ニ依リ一変スヘキヤヲ虞レ旁本年提出ヲ利アリ  
トシテ大浦子ニ發電シタリト申来リタルモ右法令ハ伊国政  
府カ十数年採リ来レル方針ノ結果ナレハ容易ニ一変スヘシ  
ト思ハレス假令一変シタリトスルモ右ハ本件ノ成否ヲ左右  
シ得ル程重大ナル事柄ニアラサルヘント信ス尚青柳ハ本件  
ヲ東京「サントス、ネヴィゲーション、シンヂケート」ノ  
名ヲ以テ提案セントシ追テ右「シンヂケート」ヲ組織スル  
積ナリトノコトニ付御来意ノ如ク目下ノ処一個人ノ事業ト  
認ムルノ外ナシ委細公信

一九一 十一月十四日 在伯国畑公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

青柳ノ補助金下付請願運動ノ相手方ハ「サン  
パウロ」州議會ナル件

第二二号

貴電第二二二号ニ関シ青柳ノ運動ハ「セントポール」州議會

ナルヤ否ヤニ依リテ同人ニ対スル態度ヲ定メラル、義ナラ  
ハ契約締結ノ場合ニ於ケル之ニ関スル保障ヲ同人ヨリ得置  
クヲ要ス尚同人ハ契約成立ノ上ハ之ヲ現在ノ両移民会社ニ  
譲与スルカニ会社ト新分子ノ合シタルモノニ譲渡スカ又ハ  
新会社ヲ興シ營業スルカハ未定ナル趣ナリ  
右御参考迄申進ス

一九四 十一月十九日 在伯国畑公使ヨリ  
牧野外務大臣宛(電報)

青柳ノ計画ニ関シテハ慎重考慮方稟申ノ件

第二四号

往電第二〇号ニ関シ青柳ノ計画假令本年成立ノ見込アルニ  
セヨ元来此計画ノ骨子ハ毎年五回定期航海ヲ開始スルニア  
レハ春秋二季以外ノ季節ニ輸送スル移民ノ落著キ如何ニ依  
リテハ契約実行出来難カルヘク其場合ニハ単ニ不面目ナル  
ノミナラス折角ノ計画ヲシテ不成功ニ終ラシムルハ甚ダ遺  
憾ナルニ付本使ノ詳細ナル報告ニ基キ是等ノ点ニ付篤ト御  
考量ヲ加ヘラレタル上御決定可然シ

一九五 十一月十九日 在伯国畑公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

日伯間航海年五回ノ航路開設並本邦移民一万  
人ニ伯国ヨリ補助金下付方ニ関スル青柳計畫  
ニ付意見稟申ノ件

通機密第五号

(大正三年一月十六日接受)

大正二年十一月十九日

在伯

特命全權公使 畑 良太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

伯国ハ土地広ク天富ノ洽通世界ニ比無ク数億ノ民ヲ養ウテ  
尚ホ余リアルハ夙ニ世人ノ知悉スル所ナリ而シテ近時北米  
濠洲ハ勿論南米諸邦ノ多クモ亦本邦移民ノ渡航ヲ欲バザル  
ニ反シ独リ当伯国ニアリテハ幸ニ未タ排日ノ氣風多カラズ  
特ニ「サンパウロ」州咖啡園主ノ如キハ寧ロ好テ本邦人ヲ  
使用スルノ傾向アルヲ以テ現今邦人ノ海外發展ニ最モ便利  
ナル地ハ当国ノ外ニ之ヲ発見スル能ハス勿論邦人ノ海外發  
展ハ単ニ移民ノ輸出ヲ以テ足レリトスルモノニアラズ須ク  
将来彼我通商航海ノ進歩發達ヲ期スルト共ニ欧米諸大國ノ  
如ク資本ノ注入ヲ図リ以テ各種有益ノ事業ヲ計營スルノ域  
ニ達セサルヘカラズト雖本邦現下ノ国情ニアリテハ先ツ多

コトヲ提議ス但シ左記各条項ハ貴立法院ノ賢明ナル意見  
ニヨリ取捨又ハ變更セラルベシ。

第一、「シンヂケート」ハ毎年少クトモ五回ノ航海ヲ実  
行スベシ。

第二、州政府ト契約後十ヶ月以内ニ航路ヲ開始スベシ。

第三、航路所屬汽船ハ「サントス」ヨリ日本迄一噸ニ付  
二磅以下ノ運賃ヲ以テ「サンパウロ」州産咖啡ヲ輸  
送スベシ。

之ガ代償トシテ「シンヂケート」ハ毎年「サンパウロ」  
州へ日本農業移民一万人以内誘入スルニ対シ左記ノ幫助  
ヲ州政府ニ請願スベシ。

第一、誘入移民一人ニ付八磅ノ旅費補助ヲ受クルコト。

第二、「シンヂケート」ハ州内主要ナル場所ニ医師及ビ  
社員ヲ出張セシメ移民ノ安全幸福ヲ図ランカ為メ適  
当ナル措置ヲ採ラシムルノ必要アルヲ以テ誘入移民  
一名ニ付二磅ノ助成金ヲ申受クルコト。

第三、移民ニ関シ州法律ニヨリ規定セラレタル総テノ  
特權ハ「シンヂケート」及誘入移民ニモ享有セシム  
ルコト。

數ノ移民ヲ都合ヨク誘入スルヲ以テ第一階梯トナサ、ル可  
ラズ蓋シ永統的ニ多數ノ移民渡来スルニ至ラバ自然兩國間  
ニ直接航路ヲ開始セザルヲ得ザルニ至ルベク交通ノ便ヲ得  
バ兩國間ノ通商關係モ亦タ随テ密接ヲ加ヘ製造品ニ乏シキ  
当國各市場ハ漸々本邦製品好華主タルニ至ルベキハ殆ト疑  
フベキ余地ナシト信ス然ルニ本使東京出發前既ニ本邦実業  
社会ニ日伯定期航海開始ヲ希望スルノ声アリ當時其実行ハ  
果シテ能ク邦人が當國ニ於テ發展シ得ル見込アルヤ否ヤニ  
ヨリテ決セラルベキ勢ニ相見エシガ本使ハ既ニ前記ノ信念  
ヲ得タルヲ以テ着任以來日尚淺キニ拘ラス邦人發展ノ方策  
ニ関シ考フル所アリ先ツ第一ニ當國ニ於テ排日思想ヲ起サ  
シメザルヲ以テ最モ注意スベキ事項トシ其防禦策ニ付研究  
スルト共ニ不取敢我移民ヲ増加スベキ計畫ヲ立テ其輸送ヲ  
基礎トシテ彼我ノ間ニ定期航路ヲ設クルノ方法ニ付考量中  
ノ処本月二日在サンパウロ青柳郁太郎來館左記訳文ノ如キ  
提案ヲ州議會ニ提出シタキ意ヲ語レリ

東京「サントス」航海「シンヂケート」(Tokio-Santos  
Navigation Syndicate)ハ左記条件ノ下ニ日本及伯國  
「サンパウロ」州「サントス」港間ニ定期航路ヲ開カン

契約有効期間ハ第一回定期航海実行ノ日ヨリ起算シ六ヶ  
年トナスベシ。

「シンヂケート」ノ希望スル特權ハ特ニ「サンパウロ」  
州ノ廣大ナル土地ヲ開發シ且又有望ナル州産業ノ一般利  
益ヲ図ルベキ重大事業実行ノ為メ必要ナルモノナリ。

「シンヂケート」ハ計畫事業決行ノ為メ巨金ヲ消費スベ  
キ甚深ナル困難ヲ有ス然レトモ其事業ハ満足スベキ結果  
ヲ得ルト共ニ社会公共ノ利益ノ為メ大ニ尽ス所アルベシ  
ト信ズ

「シンヂケート」ノ計畫スル事業ノ目的タルヤ如上ノ次  
第ナレバ州立法院ハ本事業企圖ニ対シ充分ナル賛成ヲ与  
ヘラル、コトニ期待ス。

且ツ同人ハ右提案起草者ハ州議會外交委員會ノ重ナル一人  
ニシテ現ニ我拓殖会社ノ法律顧問ナル旨ヲ談リ其意見ニヨ  
ルニ下院ノ方ハ充分通過ノ見込アリ上院ノ方モ大概ハ大丈  
夫ナレバ政府側ニ対シ副統領(州統領「ロドリゲス」、ア  
ルヴェス」ハ病氣ニテ事ヲ看ズ)及農務長官ニ対シ本使ヨ  
リ書狀ヲ以テ依頼セラル、コトヲ得バ最モ妙ナリトノ事ニ  
付是非共右ノ援助ヲ願度旨申出タリ右青柳ノ計畫ハ大体ニ



於テ前記本使ノ考案ト趣ヲ一ニシ略ホ本使ノ意ヲ得タルモノト相信シタルニ付其趣旨ニ對シテハ賛成ノ意ヲ表シタルモノ一片ノ書狀ヲ以テ州政府首腦者ノ意ヲ動カシ得ベキヤ否ヤハ甚ダ疑ハシキノミナラズ此計畫ヲ以テ帝國政府ノ公然ノ援助アルモノト測斷セラル、ノ恐アルヲ以テ予メ帝國政府ノ意向ヲ確ムル必要アリ兔モ角一応講究ノ上明日改テ回答スベキ旨ヲ申聞ケ一先ツ引取ラシメタリ。

之ヲ熟考スルニ本案ニ對スル議會ノ向背ニ關シテハ專ラ青柳ノ所説ニ拠ルノ外ナキ処同人ハ中々ノ遺手トノ事ナレバ此ノ際無謀ノ挙ヲ敢テスベシトモ思ハレズ因テ先ツ議會ノ趨勢ニ關シテハ同人ノ説ヲ信ズルトスルモ野田通訳官ノ取調ニヨレバ州副統領「ドクトル、カルロス、ギマラーエス」ハ日本人ニ對シテ向背未ダ定マラズ農務長官「ドクトル、パウロ、デ、モラエス、バルロス」ハ絶対反對者ニハアザルモ当分少数ノ日本移民ニ對シ試験的ニ補助移入ヲ許スヲ可トナシ農務次官「ドクトル、エウジニオ、レフエヴレ」ハ本邦移民ニ反對ナルヲ以テ未ダ一面識モナキ本使ガ一片ノ書狀ヲ以テ依頼スル所アルモ到底其所信ヲ動スベシトハ思ハレズ加之若シ本年提出ノ上失敗ニ終リ重テ之ヲ來

ノ偉大ナル實ニ驚クベキモノアリ現任大統領ノ如キハ實際其傀儡ニ過キストノ事ナルガ本使曩ニ大統領ニ謁見ノ後公式ニ同氏ヲ訪問シタル際同氏ハ上院外交委員長等ト共ニ面會シ約州分許懇話アリ同氏ハ意外ニ本邦ノ事情ニ通シ日本ニ對シテハ特別ニ好感情ヲ有シ居リ邦人ヲ當國ニ誘入スルハ頗ル賛成ニシテ排日ナドハ當國ニトリテハ甚ダ無意味ナリ等ノ意ヲ述ヘタリ蓋シ同氏ハ其外觀ヨリ見ルモ純歐洲人種ニアラズ察スルニ土人トノ混血ナルベク當人ハ日本人ノ血ヲ受ケ居ルガ如ク信シ居ルカ如シ此人ノ如キハ本案遂行ノ上ニ大ニ利用シ得ベキ人物ナルヘク此外聯邦議會下院議員「ギマラーエス」ノ如キモ亦當方ノ目的ヲ達スル方ニ助力スベキ人物ナリ尚ホ來年四五迄ニハ「サンパウロ」州政府當局者ノ意ヲ禱スベキ方法ハ他ニモ案出シ得ラルヘク日本移民ニ好意ヲ有スル咖啡園主ヨリ州政府ニ迫ラシムルカ如キモ亦其一策ナル可シト思考ス。

要之本使ハ此際俄カニ本案ヲ提出スルハ之ヲ來年ニ延期スルニ比シ其成効ノ希望非常ニ渺シト信シ翌日前記ノ次第ヲ青柳ニ語り且ツ電信ニテハ充分ニ當方ノ意ヲ尽ス能ハス隨テ政府ニ於テモ其態度ヲ定メラル、ニ由ナカルヘキ旨ヲ論

年ノ議會ニ提議スルトモ其成効ハ更ラニ一増困難ナルベシト思考スルニ付寧ロ一応其提出ヲ延期シ本使ヨリ先ツ帝國政府ニ對シ本提案並ニ本計畫ノ内容ト共ニ其実行ノ利害得失及現在ノ移民取扱人トノ關係等ニ付以書面之ヲ具報シ果シテ我邦ニ於テ該提案ノ通り定期航海ヲ開始シ得ルヤ又年ニ一万人ノ農業移民ヲ募集シ得ルヤ更ニ根本ニ溯リテ帝國政府ハ爾今此種ノ事業ニ對シ援助ヲ与ヘラルル御趣意ナルヤヲ確メタル上果シテ本邦ノ事情総テ差支ナク又政府ニ於テモ本使ヲシテ之ヲ援助セシメラル、御趣意ナルニ於テハ本使ハ先ツ州副統領及農務長官等ノ意見ヲ我ニ有利ナル方ニ導クベキ策ヲ講シ尚ホ「サンパウロ」州議會ノ態度ニ關シテモ機ニ臨ミテ意外ノ反對ヲ受ケサル様十分ノ手配ヲナシ通過成立ノ必然タルヲ確信シ得ルニ至ルヲ待チ明年ノ議會ニ提出セシムル方得策ナリト信スルニ付何レ明年三月頃ニ至ラバ「サンパウロ」州ニ於ケル移民労働ノ実況移民取扱人代理者等ノ執務振等視察ノ為メ本使自ら出張ノ考ニ付其際同州政府當局者ニモ其含ヲ以テ面談スベク又在「リオ、デ、ジャネイロ」聯邦上院副議長「ピニエイロ、マジャド」ハ屈指ノ政事家ニシテ當國政界ニ於ケル其勢力シタルニ同人ハ本年提出スルトモ充分成功ノ見込ミアルベキ旨ハ述ベズ反テ唯タ大ニ失望セル狀ヲ示セルノミ本使ハ尚ホ本件ハ直ニ帝國政府ニ書面ヲ以テ詳細報告スベキ考ナル旨ヲ申聞ケタルニ何故カ同人ハ之ヲ遮リ何レ「サンパウロ」ニ歸リタル後何分ノ儀可願出ニ付其迄ハ總テ差控ヘラレ度旨申出タリ因テ數日間空シク其申出ヲ待チタルニ本月十日ニ至リ突然本件ニ關スル貴電第二〇号ヲ接受シ統キテ青柳ヨリモ大浦子宛電文<sup>註</sup>ヲ添ヘ次ノ如キ書面ニ接セリ。

## (前略)

先日申上候計畫ニ付予テ相謀リ候当地議員等相談致候処然ラバ電信ヲ以テ本國政府ニ照會セバ回答數日ノ内ニ得ラルベシトカ又ハ公使ノ權限上今日直ニ之カ裏書ヲ為スニ差支候訳ナレバ移民數其他出願事項ノ細目ニ關シテハ其意見保留ノ条件ニテ唯定期航路開設テフ大体計畫ニ對シ賛成ノ意ヲ述ヘ州政府ノ考慮ヲ煩シ度旨申入レラレ候ハ、如何等議論輩出致候折柄只今ノ処ニテハ農務長官丈ガ余リ進マスト云フニ過ギスシテ議會ノ方ハ大体賛成ノ模様相見エ候旁來年ニ相成候ハ、伊太利政府ノ態度ニ變ニ由リ我移民發展策ノ実行ヲ不可能ナラシムルニ至ルヤ

モ測リ難ク現ニ伊太利汽船会社ハ伊国移民ノ招来ニ関シ先ニ「サンパウロ」政府ト補助契約ヲ締結セル關係上伊国政府ニ対シ今ヤ大ニ運動シツ、アル由ニ候間空シク此機会ヲ逸シ去ルハ聊カ忍ヒ難ク則チ本日本別紙<sup>(註)</sup>ノ通り東京表電信ニ及候御含被下度候(下略)

(註) 青柳莞大浦子爵宛電信ハ前掲一八八文書ノ附記ト同文ナルニ付省略ス)

然ルニ本使ノ意見ハ前葉既ニ記述セル通りノ次第ニ付御電問ニ対シテハ本月十三日拙電第二〇号ヲ以テ卑見ノ大要、上記顛末ノ概略並ニ本計画ハ Tokio-Santos Navigation Syndicate ノ名ヲ以テスルモ差向キ青柳一個人ノ事業ナル旨ヲ申進スルト共ニ後ニ述フル所ノ伊太利移民輸送復活運動ニ対スル愚見ノ大意ヲ申報シタルニ右答申ト行違ニ更ニ貴電第二一号ヲ以テ何レノ議會ニ向テ運動中ナルヤ並ニ本邦移民移入ノ全權ヲ一手ニ収メ将来移民会社ヲシテ直接ニ移民契約ヲナサシメサル考ナルヤ御問合セ有之直チニ拙電第二二号ヲ以テ青柳ノ運動ハ「サンパウロ」州議會ニ対スルモノニシテ契約ハ追テ作ルベキ「シンヂケート」ト州政府トノ間ニ結ハルヘク本契約ハ現在ノ移民会社ト何等關係

日僅カニ提案中其意味存セサルヲ見テ将来独占ノニ非ズト断定スルハ甚ダ早計タルヲ免レスト存セラル、ヲ以テ若シ帝國政府ノ意ニシテ独占ナルト否トニ依リテ援助スルト否トヲ決セラルルニアラバ後日州政府ト契約ヲ締結スル場合ニ当リ帝國政府ノ意ニ反セシメサル為メ予メ同人ヨリ之ニ関スル保障ヲ得置キタル上ニテ之ガ援助ヲ与ヘラル、ヲ以テ得策ナリト信セラル尚此計画ハ単ニ移民一万人ニ関スルモノニシテ将来全部ヲ独占セントスルモノニ非ズトスルモ「サンパウロ」州政府ハ従来ノ移民三千人ヲ合シ毎年一万三千人ニ対シ補助金ヲ給スルコトトナル次第ニ付将来州政府ガ尚ホ年額一万三千人以上ノ本邦移民ヲ補助セントスル時機ニ達スル迄ハ何人モ事実上同州政府ト新契約ヲ結フ能ハサルヘク州政府モ亦当分此以上ノ移入ヲ奨励スルノ意アラサルベシト信セラル、ニ付事実上当分ノ間ハ独占ノ姿タルヲ免レシ且愈契約成立ノ上ハ実行ノ權利ヲ現在ノ兩移民取扱人ニ讓渡スカ現在ノ兩者ニ新分子ヲ加ヘタルモノニ讓ルカ又ハ別ニ新団体ヲ起シテ營業スルカハ其場合ニ至リ本邦ノ事情ニヨリテ決定スベク且下何等決定シ居ラズト云フ而シテ其何レニ決定スルヤハ我伯国移民事業ノ将来ニ甚

ナキ別個ノ移民契約ナル旨及回電タルニ更ニ貴電第二二号ヲ以テ該計画ハ将来ニ対シ独占ノモノナリヤ否ヤ御尋越アリ右貴問ハ単ニ青柳ノ提案中ニ独占の意味ヲ存スルヤ否ヤヲ知ラントスル御趣意ニアラズシテ該計画成立ノ上ハ独占ノ結果トナルヤ否ヤヲ問ハル、ノ意ニ可有之ト存セラル、処提案ニ独占ノ意味ナキハ明瞭ナルモ此提案ナルモノハ議會ニ於テモ訂正サル、コトアルヘク將又青柳ノ方ヨリモ途中変更ヲ申出ツルコトナキヲ保セズ又好シヤ提案ガ独占の意味ヲ有セズシテ可決セラル、トスルモ契約ハ州政府ト「シンヂケート」トノ間ニ締結セラル、モノニシテ大体ニ於テ議會可決ノ趣意ニ抛ルヘキハ勿論ナルモ果シテ独占トナルヘキヤ否ヤハ其契約中ニ自然独占トナルベキ文句例ヘハ將來日本移民輸送補助ニ関スル頭數ノ制限擴張セラル、場合ニハ先ツ当「シンヂケート」ニ申入ルヘシト云フガ如キ語句ヲ挿入スルト否トニヨリテ決定サルベキモ今日ノ場合ニアリテハ単ニ日伯直航事業ノ開始ト共ニ年額一万人以内ノ移民誘入ニ対シ補助金ヲ獲ントスルノ企圖ニ止リ後日契約中ニ独占ノ語句ヲ入ルヘキヤ否ヤ等ノ事ハ恐ラク青柳自身ニモ未ダ想到セサル所ナラント信ス隨テ今

大ノ影響ヲ及ホス儀ト被存ル、ヲ以テ申進シタル次第ナリ。前ニ記載スルカ如ク青柳ハ若シ本年之レガ提案ヲ怠ルトキハ伊太利政府ノ態度一變ノ為メ本計画ハ不可能トナルヤモ知レサル旨憂慮セルモ伊太利政府ハ千九百二年二月廿六日「プリネット」令ナルモノヲ以テ無運賃ニテ伯国ニ輸送サルヘキ移民ノ募集ヲ禁シ且ツ従来伊国汽船会社ニ与ヘタル移民輸送ノ許可ヲ取消シ爾來伯国行移民ハ自費渡航者ニ限り其出国ヲ許スコト、ナリ此等ノ自由移民ハ其後仏国汽船ニヨリテ毎年一二万人宛「サントス」港ニ渡来セシカ客年九月十日伯国聯邦政府及「サンパウロ」州政府ヨリ伊国四汽船会社ニ対シ毎航海四万「ミルレイス」ノ補助金ヲ与ヘテ兩國間ニ直行航路ヲ開始スヘキ契約ヲ締結セリ而シテ伯国側ハ右補助金ヲ与フルノ趣旨ヲ以テ移民ヲ奨励シ且伯国産物ノ販路ヲ擴張スルニアリトシ伊国汽船会社ハ伯国聯邦政府又ハ「サンパウロ」州政府ヨリ運賃ノ全部又ハ一部ヲ補助セラル、移民ノ輸送ヲ取扱ハスト称スルモ伊国政府ハ汽船会社ガ前記補助金ヲ受クル上ハ著シク三等運賃ヲ低下シ以テ伊国移民ノ伯国行ヲ奨励スヘキニ依リ事実上

「プリネットイ」令ノ禁止ヲ破ルト同一ノ結果ニ終ルモノナリト解釈シ同年十二月卅一日外務省令ヲ以テ右四会社ニ對シ三等船客輸送ヲ差止メタル為メ前記伯國政府トノ契約ハ結局実行不可能トナレリ右ニ付過般來伯國側ヨリ伊國政府及同國有力者ニ對シ其融和策ニ関シ頻リニ運動中ノ趣ナルハ事實ナルモ伊國政府ノ移民ニ関スル方針ハ十數年來確定シ居リ今更容易ク其態度ヲ一変スベシトモ思ハレス仮リニ該契約復活スルトスルモ決シテ「プリネットイ」令發布當時ノ如ク多數ノ移民ヲ招來スルコト能ハサルベク且ツ伊國移民ノ増加ニヨリテ打擊ヲ蒙ルモノハ本邦移民ニアラズシテ寧ロ其當面ノ競争者タル葡西兩國移民タルベシ昨年中當國ニ移入セル葡、西、伊三國移民ノ統計ヲ見ルニ葡萄牙人七万六千五百三十人西班牙人三万五千四百九十二人伊太利人三万一千七百八十五人ニシテ到底本邦移民ノ企及スベキ所ニアラズ本使ハ是等ノ諸点ヨリ觀察シ青柳ノ憂慮スル伊太利移民輸送復活ノ件カ本邦移民事業ニ及ボス影響ハ極メテ微弱ニ可有之ト予想セラレ候又譚テ當國內地ニ於ケル移民需用ノ形勢ヲ觀察スルニ「サンパウロ」州咖啡園ニ毎年一万乃至二万ノ本邦農民ヲ容ル、ノ余地アルハ殆ント疑

概要ヲ申報シ御注意ヲ促シタル次第ニ有之候要之青柳ノ計畫セル所ハ伯國ニ於ケル我邦勢力ノ擴張ト邦人ノ發展トノ為メ非常ニ歡迎スベキ儀ナリト雖モ前來縷述セル通り各方面ヨリ之ヲ觀察シ此際何等ノ準備ナクシテ漫然之ヲ提出スルハ聊カ輕躁ノ舉ニアラズヤト被存候ニ付本件ハ一先ツ之ガ提出ヲ見合サシメ本使ハ勿論關係者一同ヲシテ充分ニ之ガ研究ヲナスト同時ニ諸般ノ準備ヲ整へ來年度ニ於テ適當ノ時機ヲ撰ミテ着手セシムル様致度不堪希望候就テハ右ノ事情篤ト御諒察ノ上充分ノ御考慮ヲ加ヘラレ追テ何分ノ御訓示相仰度電信説明旁此段申進候 敬具

一九六 十一月二十一日 牧野外務大臣ヨリ  
在伯國公使宛(電報)

青柳計畫ニ對スル考量延期ノ件

第二三號

貴電第二四號御稟請ノ通り貴信到着迄本件考量ヲ延バスコト、致スベシ

一九七 十一月二十二日 在伯國公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

青柳計畫ハ実行困難ニ付猶調査ノ要アル件

一〇「ブラジル」移民雜纂 一九六 一九七

ナキ所ナルモ其移入期ハ從來一般ニ咖麥收穫開始期即チ四月五ノ交ニ限ラレ野田通訳官ノ意見ニ基キ收穫後ニ就地セシムル所謂秋季移民ハ本年始メテ実行シ漸ク試験ニ附セラレタルモノニ係リ仮リニ其成績好良ナリトスルモ青柳案ハ少クトモ年五回ノ定期航海ヲ開始スルニアルヲ以テ春秋以外ノ季節ニ到着スル少クトモ三航海分ノ移民ガ都合ヨク直ニ就地シ適當ノ収入ヲナシ得ルヤ否ヤハ野田通訳官ニ於テモ余程難事ナリト思考スル趣ニテ此辺ハ尚充分調査ノ上ナラデハ確乎タル見込ヲ立ツルコトヲ得ズ將又從來當館ニ於テ調査シタル所ニヨレバ當國產物中差向キ多量ニ本邦方面ニ輸出スベキ見込アルモノハ殆ント無之隨テ烏爾圭又亞爾然丁等ノ諸國ヨリ充分ナル返荷ヲ求ムルヲ得バ幸ナルモ若シ然ラズトセバ折角青柳案成立スルモ我政府ニ於テ春秋二季ノ外移民ノ渡航ヲ許可セサルカ又ハ伯國內地ノ事情ガ季節外ニ於テ本邦移民ノ就地ヲ不能ナリトナスカ或ハ返荷乏シキ為メ予定ノ通り定期ノ航海ヲナスコト困難ナルガ如キ事情ノ為メ本契約ノ実行完全ナル能ハザルカ如キ事アリテハ本使ハ却テ面目ヲ失スルニ至ル次第ニ付旁々本件ハ輕々敷着手スベキモノニ非ズト思考シ本日拙電第二四號ヲ以テ

通機密第六號

大正二年十一月二十二日

在伯

特命全權公使 畑 良太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本邦移民誘入季節研究ヲ要スル件

日伯間直通汽船航路ノ開始並ニ毎年本邦移民一万人以内ヲ當國「サンパウロ」州ニ誘入セントスル青柳郁太郎ノ計畫ニ関スル本月十九日附通機密第五號拙信中同州咖啡園ニ年々一万乃至二万ノ本邦農民ヲ容ル、ノ余地アルハ殆ンド疑ナキモ青柳案ハ少クモ年五回ノ定期航海ヲ実行スルモノナレバ春秋二季以外ニ輸送シ來ル少クトモ三航分ノ移民ヲ果シテ都合好ク直チニ就地セシメ得ベキヤ否ニ関シテハ尚十分調査ノ上ナラデハ確タル見込相立難キ旨申進置候処右上申ノ理由ハ既ニ當館ヨリ數回報告有之候通り咖啡園ニ於テ最モ緊切ニ勞力ノ不足ヲ感ジ從ツテ移民ノ就地最モ容易ナルハ收穫開始期即チ毎年四五月ノ交ニ候ヘバ州政府ト竹村、東洋兩移民取扱人間ノ現行移民契約第一条ニモ特ニ「移民ハ成ルベク(par préférence)四、五、六月中ニ「サントス」

港ニ到着セシムルコトヲ要ス」ト夫々明記シアリ且野田通  
訳官ガ咖実收穫期末ニ就地セシムベキ所謂秋季移民誘入ノ  
可否ニ関シ「サンパウロ」市移民収容所長「フェラーズ」氏  
ノ意見ヲ求メタル際ニモ同所長ノミハ他ノ季節ニハ移民ノ  
需要收穫開始期ニ於ケル程大ナラザルガ故ニ之ヲ分配就地  
セシムルコト頗ル困難ナルベシトテ只管春季移入説ヲ固持  
シタル趣ニ有之次ギニ同州政府ガ本年初メテ試験的ニ本邦  
移民ノ秋季誘入ヲ契約スルニ当リテモ最初ハ成ルベク九月  
中ニ到着セシムベシト主張シ兩移民取扱人代理人ヨリ何分  
募集其他ノ準備ニ相当ノ日子ヲ要スルニ付今少シク猶予ヲ  
与ヘラレ度シト懇請シタル結果、漸クニシテ十月中ニ移入  
スレバ可ナリトノ承諾ヲ与ヘ而シテ兩代理人ハ移民到着ノ  
約二ヶ月前ヨリ千数百円ノ旅費ヲ投ジテ内地ヲ巡回シ優良  
耕地ヲ選定シテ其所有主ト予約ヲ結ビ候処其就地先取極メ  
ハ春季移民ノ時ニ比シ數層倍ノ困難ヲ感ジタル事實アルガ  
故ニ御座候尤本年六月十二日附公第五三三號野田通訳官ノ意  
見書中ニモ相見エ候通り毎回四五十家族ヅツ來着スル移民  
ナレバ何レノ季節タルヲ問ハス幾回ニテモ其都度容易ニ就  
地セシメ得ル義ニ候ヘ共一時ニ千数百名ヅ、春秋二季以外

特命全權公使 畑 良太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

在「サンパウロ」アントニオ、プラド」氏ハ咖啡ノ大耕主  
ニシテ同時ニ咖啡ノ仲買人ニ有之現ニ「グアタパラ」「サン  
マルチニヨ」等ノ大耕地ヲ有シ好テ多數ノ日本移民ヲ使用  
シ耕主中ニ於ケル本邦移民ニ対スル同情者ノ一人ナルガ過  
般同人ガ「オ、エスタド、デ、サンパウロ」新聞記者ノ質  
問ニ対シ其意見ヲ述ヘタル中ニ努力誘入ニ関スル説アリテ  
本邦移民ニ対スル概評アリ伯国人中ニテ日本移民ヲ歡迎シ  
ツ、アルモノ、一般ノ意見モ亦之ト大差ナカルベシト被存  
候ニ付テハ將來伯国行移民事業ニ対スル多少ノ御参考トモ  
可相成ト考ヘ茲ニ其一節及訳送候 敬具

(別紙)

「アントニオ、プラド」氏「オ、エスタド、

デ、サンパウロ」新聞記者ノ質問ニ対シ本邦

移民ニ関スル談話ノ一節

伯国経済状態ニ関スル質問ニ対シ「アントニオ、プラド」

氏ハ語リテ曰ク

「最近歐羅巴ニ旅行中余ガ印象ヲ最モ強メタルモノハ我

ニ渡航スルトキハ之ヲ優良耕地ニ送入シ移民ヲシテ大ナル  
苦情ナカラシムルコトハ随分難事ニ有之候様存ゼラレ候ノ  
ミナラズ州政府トテモ青柳ノ提案ヲ納レ移民一万人以内誘  
入ノ特許ヲ与ヘタル上ニテ移民ハ之ヲ收穫開始期若クハ春  
秋二季ニ限り到着セシムベシト制限スルコトナキヲ保シ難  
ク斯クテハ少クモ年五回ノ定期航海実行上甚大ナル困難ヲ  
生ズル次、第二有之結局右移入期問題ハ一面咖啡園ノ慣習状  
況並ニ園主ノ都合ヲ査察シ他面ニ於テ州政府当局者ノ意向  
ヲ探クル等慎重ナル調査研究ヲ要シ候ニ付早速之ガ調査ニ  
着手致候ヘ共尚ホ本使明年三四月頃「サンパウロ」州ニ出  
張ノ節州政府当局者及耕主等ノ意見ヲモ叩キ候上隨時本件  
調査ノ結果可致具報候為念此段申進候 敬具

一九八 十一月二十四日

在伯国畑公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

本邦移民ニ関スル一耕主ト新聞記者トノ問答

記事訳送ノ件

公第一〇一号

大正二年十一月廿四日

在伯

ガ伯国ノ世界ニ於ケル信用不確実ニシテ資本ト労働力ノ  
収集ニ最モ困難ヲ感ジタル一事ナリ。

我が国ノ現状ニ於テハ資本ト努力ノ誘入ハ我が当局者ノ  
最モ焦慮スベキ大問題ナリト信ズ何トナレバ過般來多ク  
ノ新聞記者等ニ開陳セル如ク移植民ヲ盛ニシ土地ノ開発  
ヲ図ルハ百般ノ問題ヲ解決スル捷徑ニシテ此等經濟的問  
題ノ解決ハ率イテ財政状態ヲ好況ニ誘致スルヲ意味スレ  
バナリ。

歐洲市場ニ於ケル咖啡ノ状態ニ付質問セラレタルニ対シ  
「ブ」氏ハ答ヘテ曰ク

「余ハ咖啡ノ歐洲市場ニ於ケル声望ハ良好ナリト信ズ何  
トナレバ元來咖啡ノ恐慌ヲ醸ス所以ノモノハ咖啡産額過  
剩ノ為メ價格低落スルニ起因スルモノナルモ現下ニ於テ  
ハ過剩ノ收穫ナク將來ト雖モ現状ハ維持セララルモノト  
信ズレバナリ。

現下ノ処ニテハ咖啡價格稍低下セルノミナラズ耕作者ニ  
対スル負担多キモ前言セル如ク咖啡收穫ノ過剩ヲ防止ス  
ルヲ得バ經濟状態モ亦自ラ好況ニ向テ誘致セララルベシ」。  
然ラバ耕主ノ現位置ヲ安定ノ域ニ誘導スベキ善後策ハ如何

ト問ハレタルニ対シ

「耕主ヲ安全ノ位置ニ置クモノハ只其筋ヨリ賦与セララル、保護ノ如何ニヨリテ解決セラルベシ」ト

而シテ政府ノ採ルベキ善後策ナルモノハ何ヲ意味スルモノナルヤノ問ニ答ヘテ曰ク

「資本ノ注入勞力ノ供給ニアリ」

記者ハ尚ホ言ヲ続ケ勞力供給問題ニ関シテハ過般州政府ハ日本移民ノ誘入ヲ歓迎セシガ農業労働ノ見地ヨリ觀察シ政府ノ採リタル政策ナルモノハ正当ナリト思考セラル、ヤ又人種上社会上ヨリ考察シテ日本移民ノ渡来ハ危険視スベキモノニ非サルヤ

プ氏ハ之ニ答ヘテ曰ク「日本人渡来ハ人種上並ニ社会上ヨリ觀察シテ忌避顧慮スルノ必要ナシ何トナレバ同移民數ヲ吾総人口ニ対照スルトキハ九牛ノ一毛ダニ及バザレバナリ

農業上ノ見地ヨリ觀察シテ日本農民ハ耕地労働ニ適應シ現ニ「ブラドシャヴェス」会社ニ所属セル一耕地ノ如キハ百有余家族ノ日本移民ヲ雇備セルガ移民ハ一同満足ニ就働シ頗ル好結果ヲ呈セリ。

ウロ」州政府ヨリ補助金ヲ得ントスルノ件ハ小生ニ於テ主義至上極賛成ナレトモ今咄嗟之間ニ提出スレハ成立ノ見込少ナク縱令成立シテモ契約ノ実行出来難ク候テハ却テ不面目不利益ヲ来スノ虞有之候ニ付前記之報告ニ基キ十分ニ御考量ヲ願ヒ尚当方ニ於テモ其間ニ各方面ヨリ研究ヲ為シ成立之見込十分ニ相立チ且ツ契約通り実行之見据モ相附キ候上ニテ着手セシメ候方可然ト信スル次第ニ候

本件ノ計画者カ青柳ナリシハ好都合ニ有之候御承知之通り同人ハ仲々ノ遣リ手ニテ曩ニ「イグアペ」殖民地ニ関シ交渉之經驗モ有之旁他ニ議會ニ対スル運動等ヲ同人ノ如ク巧ニ遣リ遂グルモノ可無之ト被存候尤モ同人ハ先々ノ顧慮ヨリハ此際先ツ權利ヲ得置キ之レヲ他ニ譲与スルニ際シ利益ヲ得ントスルモノナル可シト察セラル然ルニ現在ノ二会社モ先般来「サンパウロ」州政府ヨリ渡航費ノ補助ヲ受クル移民ノ人數ヲ増サントノ希望ヲ有シ屢州政府へ交渉シタルモ未タ其目的ヲ達スルニ至ラザリシ次第ナルヲ以テ此際若シ東洋又ハ竹村カ青柳ノ計画ヲ聞知セハ必ス躍起トナリテ騒キ立ツ可シト被存候要スルニ青柳之計画知レ渡リ諸方ヨリ種々ノ注文続出致候テハ事之実行ハ益困難トナリ青柳モ

余ハ歐洲移民誘入ニ関シ日本移民ニ先取權ヲ附与セヨト云フヲ欲セザルハ勿論歐洲移民ヲ以テ日本移民ニ換フルコトヲ得バ最上ノ策ナランモ歐洲各国政府ノ現状ハ容易ニ移民誘出ヲナシ得ザルヲ以テ労働力ノ需要補給上日本移民ヲ誘入スルニ対シ之ヲ歓迎ス可カラズト云フガ如キ理由ヲ認メ得ズ」。

最初日本移民ハ耕地労働ニ不適當ナリシト云ヒシガ之ハ事實ニ非ズヤトイフニ答ヘテ曰ク

「当初ニ於ケル日本移民ノ就働ハ事實上好結果ヲ齎サマリキ之レ畢竟スルニ彼等ノ多クハ純農民ニ非ズシテ漁夫職工等ヨリ混成セラレシヲ以テナリ、之ニ反シ其後ノ渡来者ハ皆純農民ヲ以テ構成セラレ頗ル良好ナル効果ヲ呈セリ云々」

一九九 十一月二十四日

在伯国畑公使ヨリ  
坂田通商局長宛

青柳計画ニ関シ秘密保持方其他意見上申ノ件

機密内信

拜啓十一月十九日付機第五号大臣宛報告青柳計画之日伯間直通定期航路開始並ニ本邦移民尅万人以内ニ対シ「サンバ

氣抜ケシテ仕舞フ可シト被存候ニ付本件ハ差向キ秘密ニ付セラレ必要上他ノ意見ヲ徴セラル、場合ニモ本件ヲ假想的ノモノトシ青柳ノ計画ナルコトヲ知ラシメサル方可然ト被存候將又同人カ右計画者トシテ尽力シタル以上ハ其報酬ヲ權利継承者ヨリ何レカノ形ニ於テ受ケントスルコトアルナランモ开ハ寧ロ当然ニシテ当方ヨリ深く立入ル可キモノニアラサル可ク要ハ同人ノ計画ハ我通商航海及移民政策ノ發展ニ利益ナルヤ否及其実行可能ナルヤ否ノ点ニ存シ此見地ヨリシテ政府カ愈此計画ヲ援助スルコトニ決定ノ上ハ援助ヲ与フルニ先タチ独占的ニナラサル様及此計画之成立カ他ノ二会社ニ及ホス影響等ヲ考察シ予メ此等ニ対スル保障ヲ得置ク必要可有之ト被存候

右御参考迄 勿々頓首

大正二年十一月廿四日

在伯 畑 良太郎(花押)

坂田通商局長殿

二〇〇 十二月一日

在紐育飯島總領事ヨリ  
牧野外務大臣宛

南米行本邦移民漸増ノ趨勢ニ対スル米國ノ関

心ニ関スル件

附屬書一 十一月二十八日附ニューヨーク「モマーシム

ル」ノ華府通信切抜

二 十月二十八日附ロンドン「タイムズ」通信切  
抜

公第二七六号

(大正三年一月六日接受)

大正二年十二月一日

在紐育

総領事 飯島亀太郎(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

南米移民ニ関スル件

本邦南米移民漸次増加スルニ從ヒ当國々務省筋ニ於テモ之  
ニ注意ヲ払居候趣ノ別紙新聞通信ニモ見エタル次第ニ候処  
昨今全米主義 (Pan Americanism) 運動ノ活動並ニ米國資  
本家ノ南米發展企画漸ク盛ナラントスルニ徴シ早晚何等カ  
ノ問題ヲ胚胎スルニ至ルナキヲ保セスト被存候ニ付テハ固  
ヨリ其問題ノ当否ノ別トシテ兎ニ角面倒ナル問題發生セザ  
ル前ニ於テ可成本邦移民ノ根柢ヲ確固ナラシムルノ当今ノ  
急務カト思料致候ニ付御参考迄ニ思付ノレテ別紙 New  
York Commercial 華府通信切抜及ニ倫敦報 Times 通信切

it were thought desirable to take some action, so great  
is the influx of the Orientals into Monroe Doctrine  
territory that the movement is regarded as one in which  
the United States is compelled to interest itself.

The magnitude of the stream of immigrants flowing  
in recent months from Japan to Brazil, Peru and Mexico  
is not generally appreciated. The total number of  
Japanese in Brazil is now only 10,000, but it is the  
rapidity with which others are coming, rather than the  
present size of the Japanese colony, which is causing  
concern here.

The transportation of Japanese to Brazil and other  
South American countries has been placed on a substan-  
tial business basis in which considerable capital has  
been invested. It is backed by the governments of  
Japan and Brazil. The introduction of this additional  
racial element in the already heterogeneous population  
of Latin-America contains the possibilities, it is feared,  
of raising grave questions for the United States in the  
future, particularly in view of the attitude of the  
American people towards the Japanese.

Another interesting phase of the situation is the  
suggestion from British sources that, since the Japanese

抜各一葉茲ニ添付供高覽候 敬具

(附屬書一)

十一月二十八日附ニューヨーク「モマーシム  
ル」ノ華府通信切抜

N. Y. Commercial, Nov. 28, 1913

JAPANESE INVADE BRAZIL; STATE

OFFICIALS WORRIED

FEAR THAT YELLOW MEN WILL  
OVER-RUN LATIN AMERICAS

Brazil and Japan Said to Be Co-operating in Move to  
Plant Nipponese in South America.....More Than  
10,000 Have Emigrated to Lower Continent in Past  
Year.....Are Accepted on Equal Basis.

Washington, November 27. .... Immigration of  
Japanese laborers into South American countries,  
particularly Brazil, has recently assumed such propor-  
tions as to command the serious attention of State  
Department officials. While it is felt at present that  
there is absolutely nothing which can be done, even if

are meeting with such success and general satisfaction  
in Brazil, they might well be introduced in British  
Guiana. This British possession, like all other South  
American countries, is suffering from lack of a labor  
supply and there is now a tendency to regard Japanese  
coolies as the saviors of the situation.

There is no attempt to conceal the business-like  
manner in which the immigration to Brazil is being  
stimulated by the Tokio and Rio Janeiro governments.  
Two emigration companies are engaged in the traffic  
in Japan. They are the Toyo Emigration Co. and the  
Takebayashi Emigration Co. Each received an order  
from the Japanese Government to procure 1,500  
Japanese for emigration to Brazil this fall.

The government of Brazil pays half the passage  
money of each Japanese emigrant. The Japanese are  
attracted to the possibilities of a new home in South  
America by the circulation in Japan of advertisements  
originating with the Brazilian and other governments.  
The steamship companies, emigration societies and  
other interests are assisting liberally the dissemination  
of this advertising.

The absence of the color line in the South American

countries, where the populations have large negro elements and various race mixtures, is an added attraction for the Japanese, who know something of the difficulties encountered by men of their race in the English-speaking countries.

(徳盛輔 11)

十月二十日 陸中ノ「スベヤク」 横濱 勿来

London Times, Oct. 28, 1913.

### JAPANESE EMIGRATION TO SOUTH AMERICA

(FROM A CORRESPONDENT)

Emigration from Japan to South America continues steadily, chiefly to Brazil and Mexico, although a fair number are going to Peru. The Nippon Yusen Kaisha steamer Wakasa Maru has recently returned to Japan after taking 1,500 emigrants to Santos. Her voyage from Japan to Brazil took a little over seven weeks, and no fewer than 15 babies were born on the voyage, and these, as well as all the other passengers, were landed in good health. On arrival excellent arrangements for the immigrants had been made, and their

From personal observation among the agricultural labourers in the Southern island of Japan, interest is immensely stimulated if illustrations can be added. Pictures of scenery, of crops, woods, and, above all, of the many curious animals living in South America are eagerly looked at and form topics of conversation in all the villages for weeks, stimulate the idea of emigrating, and obtain new recruits.

#### ABSENCE OF A "COLOUR BAR."

Thus, with very little expenditure and trouble, results can be obtained on which other countries spend enormous sums. It is not thought in Japan that very many of the immigrants will stay in South America, but as soon as they have saved up some money they will return. Those, however, settled on land owned by Japanese will, no doubt, to a great extent stay, and it is probable that a great many more will remain than is at present thought likely when it is realized that the "colour bar" does not exist and that the Japanese are not looked down on in any way by the people among whom they live. The fact that so many emigrants take their families with them points to a likelihood of a prolonged stay, and it is also probable

welcome was such that 18 of the Wakasa's crew deserted. Another emigrant ship is shortly sailing from Kobe with, among other passengers, 800 agricultural labourers from Kyushu. As these are used to a tropical summer, they should do very well in their new home. From the official returns it is of interest to note that it is stated that applications for passports to emigrate always greatly increase after an article on South America is published in one of the newspapers which has a large circulation. Newspapers penetrate to every corner of Japan and are universally read, even the coalminer and agricultural labourer having one left at his house daily, and in their hours of rest they are seen lying on the matting in their homes reading the news out loud to themselves in a droning sing-song voice. It would seem to be well worth while for those South American States who require immigrants to make use of this official statement of the Tokyo prefecture and make arrangements to publish articles on their countries, work, and so on in the local Japanese papers. The various steamship and emigration societies would willingly help in translating any material and arranging for publication.

that a certain number of mixed marriages will take place, their descendants merging in the already very heterogeneous Latin-American population. Because Japan is so different in almost every way from other countries, those Japanese who do not quickly become denationalized (and as a rule it is only those of a superior education who become so) become very homesick after a few years' expatriation, and taking this and other factors into consideration it is unlikely that a "Japanese question" will arise owing to immigration to South America.

This is an aspect of the question which, it may be added, should specially appeal to the Government of British Guiana. The undeveloped wealth of that colony is enormous, and the main obstacle to its development is the deficiency of labour. The climate is unsuited to white labour and, therefore, no such jealousies could arise as have resulted from the introduction of Japanese labourers in the self-governing Colonies, while any facilities granted by the Government for the immigration and settlement of Japanese could not but tend to allay any irritation caused by their exclusion from other parts of the British Empire.

二〇一 十二月一日 竹村移民取扱人ヨリ  
坂田通商局長宛

青柳ノ伯国行本邦移民計画ニ関シ移民取扱人

ノ意見ヲ徴シタルニ対シ答申ノ件

答申書

昨年十九日水野竜へ御口達ノ趣左ノ通り

ブラジル国滞在青柳郁太郎氏ハブラジル拓殖株式会社役員ノ資格ヲ離レテ一己ノ資格ヲ以テ日本「サントス、ネヴィゲーション、シンデケート」ノ名ニ於テ日本サントス間ノ定期航海ヲ開始シ之ガ補助トシテ日本移民ヲ毎年一万人輸送スル事

右移民ニ対スル「サンパウロ」州政府ノ補助金ハ每一人十磅ノ事

移民監督及医師ハ日本人ヲ送ル事

定期航海ハ汽船会社ヲシテ之ヲ行ハシムル事

移民募集ハ移民取扱人ヲシテ之ヲナサシムル事ノ条件ヲ以テ契約締結方「サンパウロ」州政府ト交渉中ニ付其援助方政府ニ願ヒ出タリ右政府援助ノ有無ニ拘ラス若シ此契約成立ノ場合ハ移民取扱人トシテ将来ニ蒙ルベキ影響

第三回ノ輸送ニ当リテハ一ケ年間可休止論達ト相成リ之為意外ノ損失ヲ重マル事亦多大ニ候ヒシモ最初御勸奨ノ御主意ヲ体シ損益ヲ顧ミズ今日ニ至ル迄継続致シ来候其間ノ苦心実ニ不易之ヲ内ニシテハ移民ノ選上種々ノ困難ト戦ヒ之ヲ外ニシテハ「ブラジル」国ノ官民ヲシテ日本移民ノ真価ヲ認メシムル等其勞力費用共ニ尠少ニアラズ候今日ニ至リ漸ク順境ニ向ヒ愈々倍々擴張ノ計画ヲ為サザルベカラズト存居候折柄青柳氏ノ計画ノ如キ事ノ行ハレ候成行候テハ今日迄ノ苦心悉ク水泡ニ帰シ可申遺憾如海ニ存申候事他ニ涉リ如何トハ奉存候へ共少シク青柳氏ノ案ニ付不審ノ件々左ニ申上候

一、日本「サントス、ネヴィゲーション、シンデケート」ナルモノ、存在ハ本取扱人曾テ之ヲ承知セズ又青柳郁太郎氏ハ移民取扱人ニアラズ然ル時ハ斯ノ如キ契約成立ノ場合ハ我政府ニ於テハ如何ニ御処分可相成哉

二、青柳氏ハ航海ハ汽船会社ニ移民ハ移民取扱人ニ取扱ハシムト云フモ本取扱人ハ同氏ヨリ未何等相談ニ預リタル事無之他移民取扱人ニ於テモ亦何等相談ニ与リタルモノアルヲ聽不申候同氏ニシテ真ニ移民取扱人ヲシテ之ヲ取

如何為参考可申出

旨承知仕候若シ右様ノ契約成立候時ハ本取扱人ノ事業ハ廃滅ニ帰シ可申奉存候其仔細ハ

第一、青柳氏契約ハ移民一人ノ渡航補助金十磅ニ有之候テ本取扱人ノ契約ハ八磅ニ御座候間同時募集候時ハ一人ノ応募者可無之ニ付自然本取扱人ノ事業ハ廢滅ニ帰シ可申候

第二、青柳氏契約一万人ニシテ定期航海ヲ為ス場合ハ二ケ月毎ニ一回ノ航海ト可相成然ル時ハ其間ニ於テ本取扱人ノ送ルベキ一千五百人ノ移民ハ就業ノ便ヲ欠キ可申ニ付「サンパウロ」州政府ハ自然本取扱人ノ契約ヲ廢棄可致ハ必至ノ勢ニ御座候

以上二ケ条ノ外種々ノ方面ヨリ之ヲ觀察致候ハ「サンパウロ」州政府ノ契約破棄ニヨルカ若クハ自然廢滅ニ帰シ候外可無之奉存候

元來本取扱人ハブラジル移民取扱事業ヲ繼承スルニ当リ故萩原通商局長ノ御意見ヲ承リ候処大和民族發展ノ将来ノ為メ屹度貢獻可致旨御勸奨モ有之候義ニ付発憤致候テ繼承ノ決心モ致候処最初ノ程ハ經驗モ無之素ヨリ損失ヲ予期候処

扱ハシムルノ意アラバ何ガ故ニ本取扱人等ニ其協議ナクシテ之ヲ提議セラレ候哉大ニ惑フ処ニ御座候

三、青柳郁太郎氏ハ或ハ移民取扱人ヲシテ下受ケ募集ヲ為サシムトノ意見ナリヤ若シ然ル場合ハ移民保護法上支障ナキ手續ヲ経ルトスルモ名聞上本取扱人ノ如キハ下受募集ハ之ヲ拒否セザルベカラザル境遇ニアルモノニ御座候

四、移民保護法上支障ナク亦名聞上支障ナク本取扱人カ募集ニ当ルモノトスルモ本取扱人ハ輸送業ヲモ兼業候モノニ付青柳氏ガ定期航海ヲ汽船会社ニ托スル場合ニ於テハ此点ニ於テ更ニ競争ノ不幸ヲ見ルニ可立至ト奉存候

五、青柳氏契約ニ於テ日本移民ノ監督及医師ハ日本ヨリ之ヲ送ル事トアリ監督トハ従前契約ニ云フ処ノ通訳ナルベク候通訳ハ契約ニヨリ最初外国語学校卒業生若干名ヲ送り之ニ当ラシメ候処通訳トシテモ監督トシテモ不十分ニ候テ現ニ通訳監督ニ從事致候モノハ「ガタパラ」耕地ニ於ケル平野某人ニ御座候

右ノ次第二付本取扱人ハ居常ニ移民中ノ俊秀ヲ選抜シテ通訳監督ノ任ニ当ラシメ居候間新タニ日本ヨリ之ヲ送ルノ必要無之ノミナラズ寧ロ其害アルヲ認メ申候医師ノ如



キモ日本医ヲ送り候テ急ニ其効アルヘキ哉否哉大ニ考慮ヲ要スル処ニ候テ本取扱人ノ如キハ今尚研究中ニ属シ急ニ之ヲ送ル事ノ有利ナリトノ断定ヲ下ス能ハス候

六、青柳郁太郎氏ガ彼ノ地ニ於ケル如上ノ運動ハ一ニ「ドクトル、ガブリエル、レッサ」氏ニ倚リ候「レッサ」氏ノ如キハ職弁護士ニ候テ一時一刻一言一句若干金ニ当リ不申テハ一挙手一投足ノ勞モ之ヲ吝シムモノニ候去レバ這般ノ契約提議ニ関シテモ無報酬ニテ援助候モノニハ可無之ト存候間十磅ノ補助ハ果シテ幾磅ノ補助ノ実収ト可相成哉呼声徒ラニ大ニシテ却テ從來ノ契約ノ実収有利ナルカ如キ事ハ可無之哉疑問ノ存スル処ニ御座候

右ノ次第二御座候間移民取扱人以外ノモノガ独存ヲ以テ契約締結ヲ提議候事ノ如キハ彼国ニ於ケル日本移民ノ将来ニ對シ發展ヲ妨ゲ候ノミナラズ或ハ却テ廢滅ノ基ト相成リ可申乎ヲ懸念スルモノニ御座候

本取扱人ハ今日漸ク「ブラジル」移民ノ順境ニ入り候ヲ期トシ代理人上塚周平ヲ呼戻シ今現ニ帰朝ノ途中ニ在リ候間或ハ大ニ斯業擴張ノ一策ヲ建可申目下窃ニ研究中ニ御座候間考案成リ候場合ニハ御省ニ對シ御援助願出候哉モ難計候

秘露国行移民ノ取扱ヲ為ス森岡移民合名会社ニ於テハ去ル八月中紀洋丸ニテ渡航セル貴県移民ニ関スル詳報ヲ得タル上ニテ在秘業務代理人ト協議シテ今後貴県下ニ於テ移民ノ採否ヲ決シ度旨申出有之右ノ如キ事情ナルニ因リ差シ当リ貴県下ニテ該地移民ノ募集ヲ為ス見込ミ無之候条依命此段申進候也

二〇三 十二月十六日 牧野外務大臣ヨリ  
在伯国畑公使宛

伯国行契約移民ノ応募情况家庭事情及家族構

成ニ関スル調査ノ結果通報ノ件

通送第九八号

移民取扱人竹村与右衛門及東洋移民合資会社ガ伯刺西爾國行農事契約移民ノ募集ヲナシタル主ナル地方(福島、三重、広島、福岡、佐賀、熊本、高知、愛知、岐阜、滋賀、岡山、愛媛、山口、長崎、福井以上各県)ノ情况ニ関シ今般各県知事ニ調査方ヲ命ジ夫々答申有之右ノ中主要ノ事項ヲ左ニ摘記シ御参考ニ供シ候条此段申進候也

記

(一)問、本移民ハ移民取扱人ノ勧誘アリテ初メテ決意セル如

一〇「ブラジル」移民雜纂 二〇三

間其節ハ事情ノ許ス限り御保護ヲ仰度奉存候  
右御口達ニ對シ卑見申上候也

大正二年十二月一日

高知県高知市菜園場町

百九十八番屋敷

竹村殖民商館主

移民取扱人 竹村与右衛門(印)

外務省通商局長 坂田重次郎殿

二〇二 十二月十一日

松井外務次官ヨリ  
谷口鹿兒島県知事宛

「ブラジル」国及「ペルー」国行移民募集ニ

関スル件

通送第六九一二号

客月十四日付保親第一一八号ヲ以テ伯国行家族移民及秘露国移民ヲ貴県下ニ於テ募集ノ義ニ関シ御稟請ノ次第有之候処本件ハ先ツ移民取扱人ノ都合ヲ聴取スル必要有之關係移民取扱人へ照会致シタルニ明年三月中取扱フベキ伯国行農業家族移民ハ已ニ各県ニ募集人員配当ヲ了シ定數ノ応募者ヲ得ベキ見込ニテ貴県へ配当スベキ残員無之趣申出有之又

キ受働的ノモノ多カリシヤ又ハ渡航ノ機会ヲ待チ居リ自カラ進ンデ募集ニ応セル者多數ナリシヤ

答、本移民ハ移民取扱人ノ勧誘ニ依リ受働的ニ決意セル者少ナク皆渡航ノ機会来ルヲ待チ自カラ進ンデ応募スルモノナリ此ノ如キ状勢ヲ作リシ動機ハ往ニ伯国へ渡航セル者ノ郷里へノ通信送金等ニヨリ同地渡航ノ有望ナルヲ確知セルガ著シキ効果ヲ奏シタルナリ

(二)問、本移民渡航ノ為メ農事其他ノ労働状態ニ影響ヲ及ボスコトナキヤ

答、少數ノ家族移民ヲ募集セル地方ニテハ労働状態ニ影響ヲ及ボス如キハ素ヨリ問題トナラサルモ福岡、熊本兩県ノ如キ多數渡航者ヲ出シタル地ニテモ人口ハ年々増加スルモ耕地ハ漸次不足ヲ生ジ労働力過超ナルガ故ニ農事其他労働状態ニ影響ヲ及ボスコトナシ

(三)問、残留家族中老體、幼弱、労働不適當等ノ者アリ之レガ扶養ノ為メ伯国へ渡航シタル家族ヨリ直チニ送金ヲナサバルベカラサル如キ事情アル者多數ナリヤ

答、目下ノ状況ニ徴スルニ独リ伯国行移民ニ限ラズ一般移民ニアリテモ何レモ自活ノ為メ渡航スル者多キヲ占メ

貯蓄、送金ノ必要アルベク特ニ伯國移民ハ家族ノ構成ヲ必要トスルヲ以テ三名以上ノ渡航費ハ少クトモ五百円位ヲ要スベキニヨリ細民ニ在リテハ渡航不可能ノ狀況ニアリ從テ多少ノ資産アル者ニ非サレバ渡航スルヲ得サルヲ以テ渡航後直チニ送金ヲ為サザルトキハ残留家族ガ生活困難ニ陥ル如キ者ハ無キモノ、如シ

(四)問、本移民家族構成条件中ニ實驗上改正ヲ要スベキ点アラバ貴見ヲ披瀝セラレタシ

答、

- 一、移民家族構成要件中通則第一ノ年齢ヲ十二歳以上五十歳以下ヲ可適労働者ト改ムルコト(福島県)
- 一、十二歳以上四十五歳以下ノ可適労働者三人以上ヨリ成立スル家族ナラサレバ合法家族ト見做サレサルモ渡航希望者ハ實際二十歳以上三十歳前後ノ家長大部分ヲ占メ居ルヲ以テ事実上十二歳以上十五歳未満ノ実子女ヲ有スル者絶無ニシテ從テ自然他ヨリ養子女ヲ迎ヘ構成条件ヲ充タサミルヲ得ズ斯ノ如キ急成ノ家族ハ畜ニ自然ニ反スルノミナラズ之レガ為メ渡航者ノ多クハ貧民ノ父兄ニ金錢ヲ提供シ強テ其ノ子女

家族構成条件ヲ廢スルコトヲ得ズトセバ正則変則ノ區別ヲ廢シ夫婦ヲ中心トセル家族トシ可適労働者三人ヲ欠クコトヲ得サラシメ之レニ附随スル渡航者ハ從來ノ構成条件通則第三項ニ抛ラシムルコトニ改メタシ其理由トスル所ハ渡航志望者アルモ家族構成条件アル為メ中止スルニ至ルモノ尠ナラズ又変則ニ屬スル志望者アルモ許可數ニ制限アルニヨリ取扱人ニ於テ扱ハサルニ依リ是又目的ヲ達スルコト能ハサルノ状態ナリ加之志望者ノ多クハ中年以下ニテ從テ其ノ家族ヲ構成センニハ新ニ養子女ヲナサザルベカラサルモ之ヲ得ルコト難ク遂ニ其希望ヲ抛棄スルニ至ルモノアレバナリ(山口県)

- 一、本移民家族構成条件ノ適否ニ付テ實驗上ヨリ論スルトキハ正則家族ハ經費其他ノ点ヨリ構成困難ナルニ反シ變則家族ハ經費ノ出途容易ナルニヨリ變則家族ノ數全家族ノ二割トアルヲ半数以上ニ變更セバ志望者モ多カルベシ(愛媛県)

一、伯國移民法第二十五条ニ誘入ノ範圍規定シアルモ夫婦ノ一方ノ從兄弟又再從兄弟迄擴張セバ募集上大ニ

ヲ貫ヒ受クルノ弊アリ故ニ夫婦間ニ実子女ヲ有スル者ハ子女ノ年齢如何ニ拘ラズ渡航ヲ許スヲ得策ナリト信ズ要スルニ家族構成ニ嚴密ナル条件ヲ附スルハ却テ諸種ノ弊害ヲ生ジ渡航後ノ成績ニ影響スル所少ナカラサルヲ以テ之レガ改正ハ最モ緊要ノコトニ屬ス(高知県)

- 一、變則家族許可ノ割合ヲ増スヲ可ナリト認ム其理由ハ變則家族許可ノ割合少ナキ為メ變則家族ニテハ渡航ノ目的ヲ達スル能ハサルヲ虞レ強テ養子女ヲナシ遠ニ正則家族ヲ構成セント企図スル傾向アリテ入籍其他ノ手續ト費用トヲ要スルモ變則家族トシテ渡航セバ右等ノ手續ト費用トヲ要セサルノミナラズ血縁アル者ヲ以テ家族ヲ構成スルニ由リ渡航後ニ於ケル成績ニ至ツテモ遠ニ養子女ヲナシ之レヲ同行シタル正則家族ニ比シ反テ良好ナラント思料セラル(佐賀県)

一、家族構成条件ハ全然之レヲ廢止シ単独移民トナスカ若クハ夫婦家族トナシ家長ノ同行スル父母実子女又ハ継子女及夫婦一方ノ実兄弟姉妹甥姪ヲ同行スルコトヲ許スコト、セバ多数ノ移民ヲ得ベシト認ム若シ

便宜ヲ得ベシ(岡山県)

- 一、家長ト比較的血縁遠キ甥姪ハ渡航地ニ於テ共同シテ勞苦ヲ為スノ覚悟乏シク且家長ニ服從ノ意思薄弱ナル為メ動モスレバ一家ノ円満ヲ欠クニ至ルノ虞アルヲ以テ必要構成員トシテハ勿論附隨者トシテモ家族ヘ加ヘサルコトニスルヲ可ナリト信ズ(熊本県)
  - (イ)、正則家族移民ノ実子女又ハ継子女ハ配偶者ヲ加入スルコト
  - (ロ)、從來年間養子女トナリ居ル者ハ十五歳以上ト雖モ加入スルコト
  - (ハ)、家長ノ伯叔父母及從兄弟姊妹ヲ隨伴シ得ルコト(広島県)
- (四)問、本移民ノ募集開始期ト渡航出發期トノ間ニ凡ソ何ヶ月位ノ余裕アラバ応募上便利ナリト認メラル、ヤ
- 答、家族移民ナルガ故ニ渡航費調達家事整理等ニ時日ヲ要スベキニヨリ少クトモ三ヶ月ノ余裕ヲ措クヲ可トス

二〇四 十二月十七日 川田東洋移民会社社長ヨリ 坂田通商局長宛

青柳ノ移民計画ニ関シ移民取扱人ノ意見ヲ徵シタルニ対シ答申ノ件

答申書

去月十九日ヲ以テ御口達相受候青柳郁太郎氏ノ伯国移民新計画ニ関シテハ弊社ハ現ニ移民取扱人ノ資格ヲ有セザル者ガ猥ニ此種ノ運動ヲナスハ弊害多ク直接間接ニ当業者ノ權利ヲ侵害致候事ト奉存候

然レドモ同国ニ於ケル移民事業ハ将来頗ル發展ノ余地有之候ハ申ス迄モ無之弊社トシテハ斯業ノ健全ナル発達ハ元ヨリ希望致ス処ニ候ヘバ該計画ガ果シテ堅実穩健ナルモノニ候ヘバ弊社ハ充分考慮ノ上万全ノ策ヲ講シ度存居候御下問ニ対シ弊社所見ノ大要上申仕候也

大正二年十二月十七日

東京市京橋区新肴町十番地

東洋移民合資会社

社長 川 田 鷹

外務省通商局長 坂田重次郎殿

二〇五 十二月二十二日

牧野外務大臣ヨリ  
在伯国畑公使宛

青柳ノ移民計画ニ対スル移民取扱人ノ答申書

写交付ノ件

通送第一〇四号

本件ニ関シ貴電第二〇号等ニテ御稟報ノ次第モ有之当方ニ於テモ為参考關係移民取扱人ノ意見ヲ徵シ置候処別紙写ノ通り答申書差出候ニ付右ハ貴方ニ於テモ何等御参考ト可相成ト被存候条右写茲ニ供貴覽候也

注 別紙前掲ニ付省略

### 事項一 「アルゼンティン」移民雜纂

二〇六 十一月二日

在亜国日置公使ヨリ  
牧野外務大臣宛

「アルゼンティン」在留本邦人ノ情况及及亜国人ノ对本邦感情報告並我領事館設置ノ必要稟申ノ件

亜公信第三号

(十二月廿三日接受)

大正二年十一月二日

在亜国

特命全權公使 日 置 益(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

本官国書捧呈ノ為メ曩キニ亜国ニ出張シ本年四月十一日ヨリ同年六月十五日迄滞在中調査シタル在留本邦人ニ関スル情况概要左ニ報告致候

在留民ノ情况 無限ノ富源ヲ有セル亜国産業ハ驟々乎トシテ發展シ国運ノ隆盛実ニ人目ヲ眩惑セシムル計リナリ左レバ欧洲ヨリ移入シ来ル資本及労働者ノ数頗ル大ナルニモ拘ハラズ事業界ハ尚ホ常ニ此二者ノ欠乏ヲ訴ヘテ已マズ一

一一「アルゼンティン」移民雜纂 二〇六

### 移民雜纂

九一二年ニ於ケル外國移民(主トシテ欧洲)無慮三十二万三千四百余人ニ達セリ亜国ニ於ケル本邦人ノ数モ漸次増加ノ勢アリ而シテ此等ノ増加ハ主トシテ伯、秘兩國ヨリ転航者並ニ本邦ヨリノ直航自由移民ニ因ルモノトス  
海外在留者中我公館ニ届出ヲ為スモノ寧ロ少数ナルヲ以テ在留本邦人ノ現在數ハ之ヲ正確ニ知ルヲ得ザルモ現今同地ニ久シク在留シ同胞ノ往来ニ精シキ一邦人ノ推測ニヨルニ其數一九一〇年頃ニ於テハ約四百名ナリシガ今日ニ於テハ優ニ千以上ニ達セルナラント云ヘリ

左記在武愛市郵便局カ本官ノ依頼ニ応シ調製シタル送金表ハ同国ニ於ケル本邦人ノ異動ニ関スル唯一ノ確實ナル材料ナリトス  
在留本邦人武愛市郵便局經由送金表

年 次	回 數	一口平均高	總 高
一九〇七	二	二元、三	二元、六
一九〇八	四	三元、〇	一元、三
一九〇九	三	英、四	一元、三
一九一〇	一	一九、五	三、九

二九一